



中国実務者招へい計画  
中国実業家邀请计划

1990

国際協力事業団  
研修事業部







# 中国実務者招へい計画 中国实业家邀请计划

JICA LIBRARY



1089084(6)

22137

1990

青業

JR

91-708



# 信頼と友情への第一歩 信赖与友谊的第一步

平成2年度中国実務者招へい計画  
1990年度中国実業家邀请计划



国際協力事業団柳谷総裁表敬  
拜访国际协力事业团柳谷总裁



12月19日、中国実務者訪日団代表6名は、国際協力事業団本部に柳谷総裁を表敬訪問した。

12月19日、中国実業家訪日代表团六名代表到国际协力事业团总部拜访了柳谷总裁。



# 歓迎会 〈欢迎会〉



歓迎の挨拶をする国際協力事業団遠藤理事  
国際協力事業団遠藤理事致欢迎词



黄総団長の挨拶  
黄总团长致词

1ヶ月の滞在に期待をこめて乾杯  
祝愿在一个月的逗留期间能够取得丰硕成果，干杯！

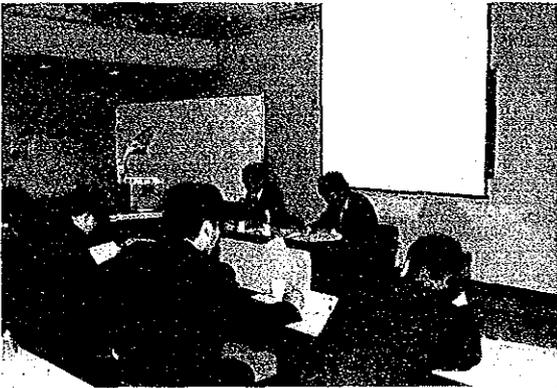


期待に胸をふくらませて  
热烈期待着

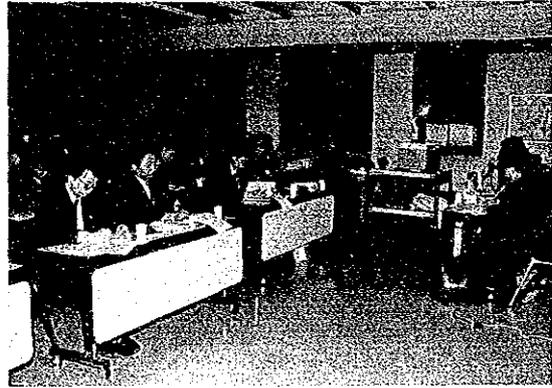
## 共通プログラム 〈共同日程〉



日本武道館で演武者との記念写真  
在日本武道馆与演武者拍照留念



熱心に講義に耳をかたむける  
认真听课



## 都内分野別プログラム 〈東京都内日程〉



日本の伝統文化（生け花）を体験  
体验一下日本传统文化—插花



# 合宿セミナー 〈合宿研讨会〉

日だまりの中、話しもはずむ  
在明媚的阳光下，谈笑风生



セミナー分科会での1コマ  
分组研讨会上的情景

夜遅くまで話しはつきない  
谈到深夜也谈不完

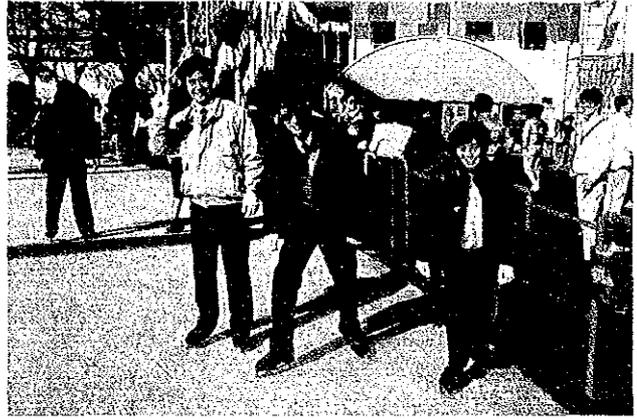


日中友好のキャンパイ！  
为日中友好而干杯！

# 地方分野別プログラム

## <地方日程>

スケートに挑戦  
向滑冰挑战



幼稚園児の歓迎におもわず笑みがこぼれる  
受到幼儿园小朋友的热烈欢迎，不由得笑容满面

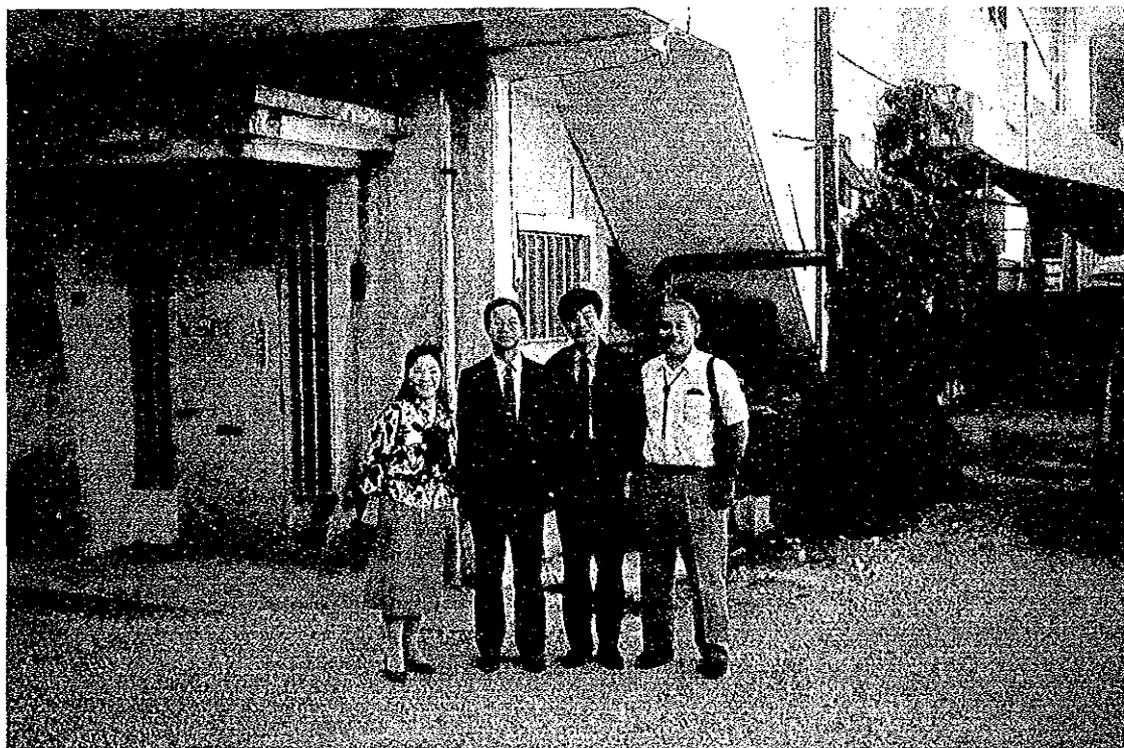


ショッピングを楽しむ一値段はどうか？  
愉快地买东西—价格怎样？

ホームステイ  
〈民宿〉



新しい“お兄さん”に肩ぐるま  
“弟々” 騎在“新出现的哥哥”的脖子上。

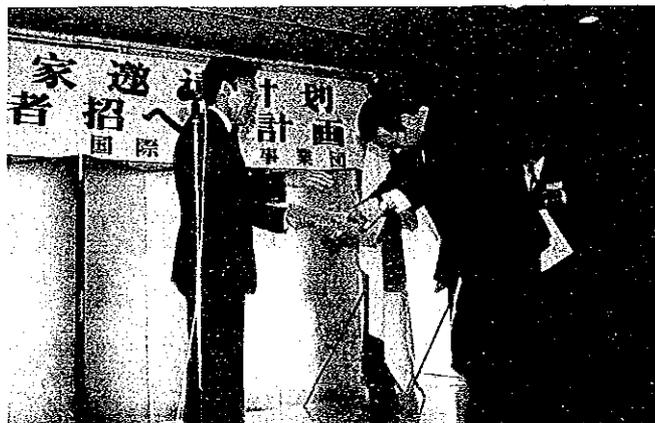


家族そろって記念写真  
全家摄影留念

歡送会  
〈欢送会〉



国際協力事業団遠藤理事より各グループ団長に参加証が授与される  
国際協力事業団遠藤理事向各班団長授与参加证书



日中友好にかんぱい！  
为日中友好而干杯！



中国青年の余興にみんな集まって  
中国青年余兴表演，大家也跟着  
凑热闹



また会いましょう  
再见再见



新しい友人と伴に  
跟新朋友在一起

# 中国実務者招へい計画



## 序

21世紀に向けて新たな友情と信頼関係を結ぶことを目的として、平成元年の日中首脳会談において竹下総理大臣（当時）により表明されました「中国実務者招へい計画」は、今年度、地域産業技術、産業基盤整備、経済・貿易および文化・教育関係各実務者4グループ99名を迎え、第一歩を踏み出しました。

1カ月にわたる招へい期間中、合宿セミナー、ホームステイ、各種施設・企業視察といったさまざまなプログラムを通じ、中国の青年の皆様には日本の各地ですばらしい出会いをもたれたことと思います。中国青年の皆様と交流する機会のあった日本青年の皆様からも、言葉や生活習慣の違いを超えて共感しあえた喜びの声をたくさん寄せて頂き、このプログラムが大変有意義であったものとうれしく思っております。

本報告書は、招へい青年の代表、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けて頂いた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の1カ月の滞在記録をとりまとめたものです。本事業の実施に当たっては、感想文を紹介させて頂いた方々を含め、多数の方々のご協力をいただきました。そうした方々にとって本報告書が思い出の一助となり、また参加者の体験をより多くの方々に共有して頂くことができれば幸いです。

終わりに、本紙面を借りまして、本計画の実施に温かいご理解とご協力をお寄せ下さいました関係者の皆様にあらためてお礼申し上げますとともに、「中国実務者招へい計画」が今後ますます有意義な交流プログラムとなりますよう、引き続きご支援の程お願い申し上げます。

平成3年3月

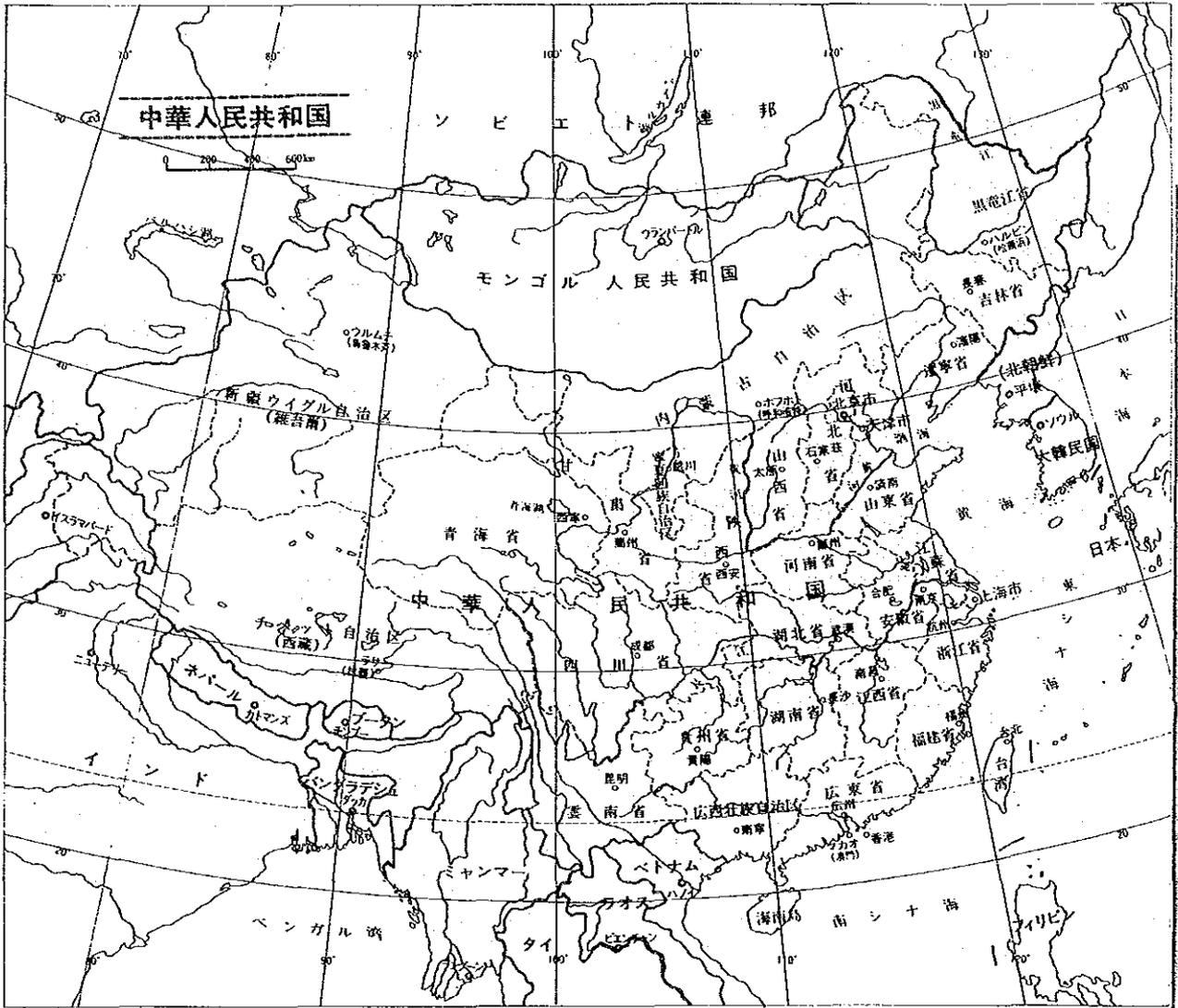
国際協力事業団  
研修事業部  
部長 諏訪 龍



# 目 次

## 序

1. 中国実務者招へい計画	
(1) 事業の概要	7
(2) 実施協力団体と実施県	9
2. 招へい青年の印象	11
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	21
4. ホストファミリーの思い出	27
〈実績資料〉	
1. 現地プログラム実施日程	36
2. 平成2年度中国実務者招へい計画実績	36
3. 実施日程	37
4. 平成2年度青年招へい事業受け入れ実績一覧	41
5. 青年招へい事業実施協力団体等一覧	42
〈中国青年名簿〉	83



# 1. 中国実務者招へい計画

## (1) 事業の概要

### 1) 事業の目的

「中国実務者招へい計画」は、日本と中国の実務者の交流を通じ、中国の近代化建設を支援するとともに、21世紀に向けて、より良き日中の協力関係を構築するために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

### 2) 実施方法

#### ①招へい人数

平成2年度は、100名の青年を同時期に受け入れる。

#### ②招へい対象者

下記分野における指導的立場にある18～35歳前後の青年

##### (i) 地域産業技術実務者 25名

農業及び農村工業の技術開発とその普及・企業化を通じ、地域振興に従事している者等を中心に招へいする。

##### (ii) 産業基盤整備実務者 25名

産業基盤（インフラストラクチャー）整備を通じ、地域振興に従事している者等を中心に招へいする。

##### (iii) 経済・貿易実務者 25名

経済運営や貿易実務に携わり、経済改革を進めている者等を中心に招へいする。

##### (iv) 文化・教育関係実務者 25名

文化振興・保護に従事している者等を中心に招へいする。

#### ③招へい期間及び時期

招へい期間は平成2年度11月20日から12月20日までの1カ月間



(ii) 構成メンバー：関係省庁より推薦された民間の実施協力団体。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| (財)青少年育成国民会議     | (財)国際交流サービス協会    |
| 中央青少年団体連絡協議会     | (財)青年海外協力協会      |
| (財)世界青少年交流協会     | 日本青年団協議会         |
| (財)日本国際生活体験協会    | (財)日本ユネスコ協会連盟    |
| (財)全国農村青少年教育振興会  | (財)日本ユース・ホステル協会  |
| (財)日本経済青年協議会     | (財)日本友愛青年協会      |
| (財)勤労厚生協会        | (財)国際協力サービス・センター |
| (財)ユースワーカー能力開発協会 |                  |

### 5) 実施運営分担

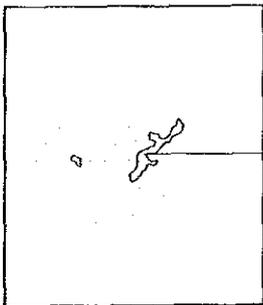
	プログラム 監 理	プ ロ グ ラ ム 実 施		食事・宿舎の 手 配
		連 絡 調 整	実 施	
共通プログラム (都 内)	国際協力事業団	国際協力事業団	国際協力 サービス・センター	国際協力 サービス・センター
都内分野別 プログラム (都 内)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
合宿セミナー プログラム (東 京 近 郊)				
地方分野別 プログラム (ホームステイを含む)		実施協力団体 地方協力団体 (国際協力事業団 国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団 国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団 国内支部)
見学旅行 (広島、京都等)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
評価プログラム (都 内)		国際協力事業団	国際協力 サービス・センター	国際協力 サービス・センター

(注) 地方分野別プログラムは、地方公共団体の指導と協力を得て実施する。

### (2) 実施協力団体と実施県

分野別	人数	実施協力団体名	実施県
地域産業技術実務者	25	全国農村青少年教育振興会	岐 阜
産業基盤整備実務者	25	青少年育成国民会議	広 島
経済・貿易実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	沖 縄
文化・教育関係実務者	25	世界青少年交流協会	徳 島

# プログラム実施県図



沖縄県  
経済・貿易実務者

## 2. 招へい青年の印象

### 日本の農村地域振興



熊波

地域産業技術実務者グループ

中日国交正常化以来、両国は各方面で交流が盛んになった。私たちは今回JICAの招へいで1カ月日本に滞在した。見学と研修を通じて、特に日本の文化、科学技術、農村地域振興について、ある程度の理解が得られたと思う。

まず、農村の地域振興だが、農協と政府の農業政府は大きな役割を果たしていると思う。日本の都市所得と農村所得はそんなに差がなく、農村にも情報ネットワークは完備している。中央には全国農業協同組合中央会があり、全国各地で、それぞれの農協がある。農協は農村の生産、資材供給、農産品販売および農家に対する金融保障の面で、農民の利益のために大きな役割を果たしている。中央農協と地方農協がそれぞれ自主的に活動しているのも特徴である。日本政府は農村の振興をその政策の重要課題とし、一連の有効な農業政策を打ち出した。たとえば、日本では米作は利益が少なく、生産量が過剰さみである。米生産の健全な発展のために、政府はいろいろな施策を出して、米作農家の利益を守ると同時に、転作も奨励している。

岐阜県で7日間見学して、ホームステイもし、深い感銘を受けた。岐阜県内は気候と地理的变化が大きく、皆さんはそれぞれの地方の利点を生かして、市場ニーズに合うように伝統的特産物を再開発している（例えば、明方村のハム生産、その他の養鶏、野菜、花きなど）。岐阜県の皆さんはソ

フトな経営方式と自分の智恵と勤労で、農村地域の振興に貢献している。

農業のためにサービスを提供する機構が整っていることもいいことだと思う。たとえば、各地の農業改良普及所とその普及員は、農家に具体的な技術指導をする。農家がつくった農産品は農協が受け取り、市況に応じて販売する。そうすることにより、農産品の販売に対する農家の不安もなくなるのである。これは私たちが参考にすべき方式だと思う。わが国にも各種農民研究会という組織があるが、もっとしっかりした組織づくりが必要だと思う。

日本は科学技術と人材を大事にしている、これを利用して新技術、新製品をどんどん開発しているとの印象を受けた。研究成果の応用と普及の速さには、ほんとうに驚いた。

日本は教育も大事にしている。農村地域の高校進学率も高いし、小・中学校の施設も素晴らしいものである。

全体的に日本の物質文化の質が高いと感じた。それは日本人が一生懸命働いた結果だと思う。日本人の勤勉さ、仕事に対する真剣さから、私たちが勉強できるものが多いと思う。

### ホームステイの感想



李華

地域産業技術実務者グループ

東京に着いたその日に、岐阜県に行ったらホームステイがあると言われたので、それに備えて私は一生懸命に日本語を勉強して、かな

り上達したような気がしていた。だから、ホームステイに入る前までは、気持ちがわりに楽だった。ところが、ホストファミリーのご主人、薫田正義さんと対面した瞬間、「はじめまして、よろしくお願ひします」とあいさつしたあと、もう次に出る言葉がない。一生懸命に習った日本語はどこかに消えてしまった。薫田家に行く途中、薫田さんと互いに何か話そうとしたが、言葉が通じないので、ときおりお互いに顔を合わせてはほほ笑むだけだった。言葉が通じなくて、この2日間をどうやって過ごそうかと、心細い思いでいっぱいになった。幸い最後にひとつの覚悟ができた。中国には「同じ屋根の下で暮らせば同じ家族」ということわざがある。薫田家の屋根の下に入るのだから、もう薫田家の家族の一員だ、そう考えて、だんだん気持ちが落ち着いていった。

薫田さんのお宅に着いた。奥さんから「你好、歡迎光臨」とのあいさつをされて、すごくうれしい気持ちになった。てっきり奥さんが中国語がわかかると思って、私は玄関先で奥さんに中国語でワーワーと言ひ出した。しかし、何かおかしいと感じた。奥さんは口を大きく開けて、いかにも途方に暮れた表情で私を見ていた。彼女も私と同じで、簡単なあいさつしか中国語ができないのだ。しばらくはどうしようもない無言の状態が続いたが、とうとうそのおかしさに気づいて、みんな大笑ひした。この笑いでしらけたムードも消えてしまった。

夕食後、居間で熱烈な交流が始まり、薫田さんご夫妻と息子さん、娘さん家族全員が参加した。私たちは日本語、中国語、漢字、手話、英語、絵など交流の助けになるあらゆる言葉と方法で、熱く、楽しく交流し、家族的な温かい雰囲気を楽しんだ。私たちは言葉こそ違ひが、互いに多くの共通点を持ち、心が通じ合う人間同士だとつくづく感じた。

薫田家ですごく楽しい2日間を過ごした。2日

間に、共同生活と仕事を通じて、私はもっと深く日本の農民の普段の生活、仕事およびその近所の社会、経済、風土、人情について理解が得られた。ホームステイ前にすでに得た日本人の危機感、競争意識、時代の先端を行こうとするあせりについての印象は、もっと強烈になった。まさにこの危機感と意識によって、日本人は自分たちの国を今のような高度に発達した経済大国につくりあげた。同時に私は日本のいま直面している問題を身にしてみるように感じた。たとえば、エネルギー問題、高齢化問題、国際化の問題など。また農村人口の過疎化の現象、ほとんど政府の補助金で支えられている日本のエネルギー消費型農業、農産品市場開放後の国際的競争など、何をとってもやっかいな問題である。

中日両国は文化と伝統の面で、切っても切れないつながりがあり、古くから交流があった。今日の国際環境の中で、中日両国の友好と共同発展はいつそうその必要性を増してきた。21世紀は私たち若者の時代である。したがって両国の青年の相互交流、相互理解を強め、友情を増進させることは、中日両国民が長期にわたって友好的につきあう基礎になると思う。

薫田家で過ごした2日間は、双方の理解と友情を深め、大きな収穫だった。2日間の時間は短いが、私たちに深い思い出を残した。これから中日両国民の間にこのような交流がもっと多く、もって深くなるよう期待してやまない。また、この紙面を借りて、薫田さんおよびご家族にこころから感謝し、さらに世界の平和のために中日両国民が世々代々に友好的につきあっていますようお祈りします。

## 日本農業の振興に貢献する科学技術



呉 偉雄

地域産業技術実務者グループ

30日間の日本滞在が終わった。多くの面について勉強になったが、もっとも感じたのは、科学技術が日本の農業に貢献しているということである。

日本の農業生産額は国民総生産の2.6パーセント、農業人口は全人口の16パーセント、農業からの税収は全国税収の2パーセント、農業の財政支出は政府全支出の5パーセントなどのデータからわかるように、日本の農業の現状は必ずしもいいとは言えない。しかし、実際に私たちが農村で見学してわかったのだが、農民の所得は低くはなく、生活レベルも高く、生産の拡大にもたくさんの資金を投下して、温室の花き栽培、農業の機械化、牧畜業、水産業を行っている。このようにできるのは、政府のしっかりした政策の保障と農協の指導が役割を果たしているほかに、科学技術によって、農家に優れた品種を提供したり、新しい生産方法を開発し、病害虫から作物を守っている。また、農産物の貯蔵と加工において付加価値が生まれてくるように生産環境の整備をしたりすることも大きな理由だと思う。すなわち、科学技術は衰退しはじめた農業を復興させつつあるのである。

日本の科学技術は、主として次の3つの特徴がある。

1. 導入と総合 日本は自主研究を行うとともに、外国から多くの科学技術を導入してきた。農業も外国から技術を導入して、それに“改良”“総合”などいろいろ工夫を加えて、もっと優れた技術に仕上げるわけだ。新しい稲の品種、酸っぱいみかんを甘いみかんに改良できたのも、この技術導入の成果だと思う。外国からの導入だけではなく、国内の他業界の技術を農業に導入するのも役

に立つ。たとえば、花き生産における建築技術の応用(温室、防雨構造)。野菜生産における食品保鮮技術の応用がそうである。これら“改良”と“総合”を加えられた外国または他業種から導入された技術は、手をつけやすく、少ない投資と短期間で、多くの利益をもたらしている。

2. 普及 日本は農業技術普及の面で多くの経験を積んできた。政府、農林水産省は海外および国内技術情報をキャッチし、政策立案をする。学者や研究者たちも海外での交流と研修で、新しい技術を習得してきた。各地農業試験機関は試験栽培をし、確かな技術は農協または普及所を通じて、計画的に普及させてきた。そのとき、指導農業士はまずそれを応用して、その成果を他の農民に示す。大きな技術の普及に当たっては、国が50パーセントもの補助金を出していると説明を受けた。以上のようなしっかりした組織と方法を通じて、新しい技術成果は速く普及できたのである。全国一の種牛飛騨牛の「安福号」は、人工授精の技術によって、岐阜県全域にその優良肉用牛の数が全体の85パーセントまでを占めることとなった。温室花き栽培技術も岐阜県全域に普及させた。西南濃普及所では高田さんをはじめとする5人の花き農家は普及所の指導のもとで、共同出資して生産管理と販売を協同で行う協同組合をつくった。協同組合は高額な投資で進んだ技術を取り入れ、高価な花を市場に出して、高い利益を得ている。

3. 奨励 研究、導入と普及の成果に対しての奨励も忘れられない。友好交流のとき、ある日本の青年は私に「成果が出たら、私たちはある程度の奨励金と特許使用料をもらえます。これをもって生活のレベルアップと生産の拡大を行います」と言った。花き生産においては、種苗を買うとき、1株100円の特許料を発明者に払うとの説明を聞いた。

中国でも科学技術が大変重要視されている。以上のような方法もあるが、もっと技術の“導入”

“改良”“普及”“奨励”に真剣に取り組む必要があるのではないかと思う。

## 訪日感想

### 第4組

産業基盤整備実務者グループ

このたびの訪日は、期間が短いながらも、成果は大きいものだった。私たちは、政府機関・企業の訪問見学を通じて、戦後日本経済の発展およびインフラの現状、発展計画に対して、基本的な理解を得ることができた。とりわけ、広島県山県郡千代田町およびJR西日本広島支社の見学により、日本の農村経済と日本の鉄道運輸システムについて、さらに認識を深めることができた。

私たちの感想をまとめると、以下の通りである。

1. 見学の先々から、中国は学ぶことがたくさんあると思った。教育を例にとってみれば、地方自治体は都市建設計画の中で、大学の設立を重要項目として位置づけ、そのための諸条件を整えるように努めている。また、見学した企業も自身の技術学校をもっている。そのため、技術の発展、製品の質と競争力を保つことができたと思う。つまり、教育は経済の発展に不可欠であると感じた。

経営においては、企業の利益を重んじると同時に、従業員の福祉向上にも力を入れている。従業員の仕事ぶりに対し、金銭的に報いるとともに、精神的奨励も行っていることが、大変印象に残った。

そして、もっとも感心したのは、企業側が効率を求める一方、従業員に対し、仕事の中で生き甲斐を感じさせる工夫をしていることである。

また、日本の経済発展の歴史から見ると、エネルギー、交通、通信が地域開発に重要な役割を果

たしたことをあらためて認識した。

2. 見聞を広げた。このたびの見学で、深く印象づけられたのは、日本の企業では、コンピューターが広範囲にわたって使用されていることである。また、オートメーション化の高い自動車製造ライン、品質検査ライン、モノレール、収穫からパッキングまで一貫して行う食品加工機械を見学して、その先進性に驚くと同時に、私たちがもたずまず挑戦しようと思った。

3. 日本人との友情を深めることができた。

日本人青年とのセミナー・合宿およびホームステイを通じて、日本の各階層の人々と知り合うチャンスに恵まれた。彼らとの交流から、多くの日本人は私たちに対して、友好的であることがわかった。また、社会制度、生活習慣が違っても、外国との交流を深め、平和を愛し、人類の進歩に微力ながらも貢献しようという点で一致した。それは、中日両国の友情、進歩と発展にとって、なくてはならないものであると私たちは思う。

私たちは帰国してから、中国の国情、また中国の各地方の実情を考慮しながら、日本で学んだことを自分の仕事に生かし、4つの近代化の早期実現に貢献したいと思っている。

## 訪日感想

### 第5組

産業基盤整備実務者グループ

1カ月の訪日は、日程はハードであったが、楽しいものだった。公共機関の訪問、建設現場の見学、名勝旧跡の遊覧、ホームステイを通じて、日本社会に対して基本的な理解を得ることができるようになった。私たち産業基盤整備グループ第5

組の感想は次のとおりである。

1. インフラ建設現場を見学することによって、日本の科学技術の発展ぶりが深く印象づけられた。

私たちは東京で多摩ニュータウン、広島で西部丘陵都市、大阪で千里ニュータウンを見学する機会に恵まれた。日本の国土利用、公共施設の建設、交通システム、通信ネットワークの形成のあり方をこの目で実際に見て、その素晴らしさに感心させられた。国土利用、都市建設のマクロ的な企画および教育、医療、通信、交通、商業施設の面において、中国が日本から学ぶべきところがたくさんあり、4つの近代化の建設にぜひ生かしたいと思っている。

2. 戦後広島の発展ぶりから、日本人の智慧と勤勉さをうかがうことができた。

私たちは広島に10日も滞在した。最初に原爆資料館を見学したが、資料から、広島県民の受けた災害が想像できた。それから、県庁といくつかの市町の役所・会社を訪問見学し、広島の産業水準、教育レベルの高さ、広島県民の生活の豊かさを目のあたりにした。また、県をあげて、4年後に開かれる第12回アジア大会の成功を目標に、その準備に取り組んでおり、世界有数の平和文化都市になろうとしている。

日本の戦後の発展は、日本政府と民間の協力および日本国民の努力の結果であり、広島はその一例であると思った。

3. ホームステイを通じて、日本文化を身をもって体験することができた。

今度の訪日の中で、最もおもしろかったのは、ホームステイだった。家庭滞在によって、日本の風土人情、生活習慣、伝統文化、家庭教育、食文化をかいま見ることができ、日本人が伝統文化と

近代文化をうまく結合しているのがよくわかった。その中で、最大の収穫は日本人の中国に対する友情を感じたことだった。

短いながらも、収穫の大きかった訪日が終わった。これからの中日交流を思い、私たちはJICAに2点ばかり提議したいと思う。

まず、私たちは青年実業家の訪日である以上、広く、浅くではなく、より深みのある交流を期待していた。今度最も残念だったのは、同年齢の同業者と交流する機会が一度もなかったことである。私たちは中国の大、中規模の紡績企業の工場長である。日本の経営者から、経営理念・品質管理について学ぼうと思っていたが、この面の成果はあまりなかった。

次に、もともとは馬からおりて、じっくり考察するつもりだったが、実際には、走っている馬から見るだけだった。半日で4カ所も見学する日もあって、ひとつのテーマに関して、じっくり考えるゆとりもなかった。これからは、もっと時間をかけて考察し、質疑応答の時間をもてるようにお願いしたい。

とにかく、今度の訪日で私たちの得た収穫は大きいものだった。これをいかして、帰国後は、さらにより仕事をしたいと思っている。

## さよなら、沖縄!



王 敏

経済・貿易実務者グループ

JICAとユース開発協会の

心のこもるご配慮のもと、私

たち経済貿易グループは、大

都市東京の風貌、にぎやかな商業都市大阪、風光明媚な富士吉田市、優美な古都京都を訪れることができた。すべての街がとても美しく素晴らしい印象を残してくれた。しかし、私の沖縄、そして

沖縄の人々への思いは、それ以上に、私の心に強く残った。

10日余の東京およびその近郊の市、県の参観を終え、飛行機で美しい亜熱帯の楽園に到着した。那覇空港に着くや、JICA沖縄支部の方と、沖縄国際交流財団の皆様、金城さんの熱烈なる出迎えを受けた。ホテルに向かう途中、温かいバスガイド嬢上地さんは、美しく素晴らしい歌声で、私たちに沖縄の民謡を聞かせてくださった。誰も彼女の歌う歌の意味は理解することはできなかったが、彼女の笑顔と歌声で十分に私たちが歓迎しているのだということが伝わってきた。その歌を聞いて私たちは皆、2時間の飛行機の旅の疲れが、またたく間に飛んでしまった。彼女が中国人の奥さんになりたいと言ってから、彼女は団員の男性たちの心を、完全に奥さんから奪い取ってしまったようだった。

私たちの沖縄での生活が始まった。1週間の間、私たちは沖縄電力、オリオンビールを参観し、沖縄の青年と交流をしたり、沖縄の家庭で2日間のホームステイをしたりした。これらの交流を通じ、沖縄の人々が一生懸命働き、故郷づくりに励む姿を目の当たりにし、また、沖縄と中国の長きにわたる友好往來の歴史を知って、ますますこの宝島とここに生活する人々が好きになってしまった。

海洋博記念公園に向う日、私たちは再び上地さんの観光バスに乗ることになった。途中、上地さんは明るく生き生きと私たちに左右の景色、沖縄の風土、人情を案内してくれた。あのこの上もなく美しい海、そして青い空、それに彼女の人をひきつけるような楽しい話も加わって、かなり長い道のりだったが、笑い声と楽しい歌声で、あっという間に目的地に着いた感じだった。

海洋博記念公園に着いて、私たちは浜辺で心ゆくまで水と遊び戯れ、あのけわしい絶壁、波の花が岸に打ちつけられるのを眺めながら、遙か遠くに思いをはせた。水族館の中では、いろいろな形

やいろいろな色の亜熱帯魚、美しい珊瑚がこの上もなく美しい思いに浸らせてくれた。

いつの間にか、沖縄とお別れしなくてはならないときになってしまった。金城さんが目にいっぱい涙をためているのを見て、私たちの心もせつなくなってきた。私たちは手を振りお別れをしながら、沖縄の友達に健やかなること、そして、近いうちにも、彼らと再会し、楽しくおしゃべりすること、そして、もう一度沖縄の家庭でホームステイすることを心で願っていた。

さようなら、沖縄！きつといつかまた、私はあなたのもとへ帰ってきます。

## 沖縄の印象



謝 東紅

経済・貿易実務者グループ

紺碧の海に囲まれた沖縄、あの海の辺りには私の故郷福建がある。沖縄は私にとって、

よく知っている所とも、未知の場所とも言える。よく知っているというのは、沖縄の那覇市とわが省の福州市は姉妹都市を結んでいるので、私も沖縄とは親戚になるからだ。未知であるというのは、今まで一度も日本に来たことがなかったからである。沖縄はいったいどんな所だろうか？ 沖縄の人々はどんな生活をしているのだろうか？ 私にとってずっと知りたかった謎だった。私は、このようなさまざまな思いを抱いて、中国実務者訪日団経済貿易グループの一員として、沖縄の土を踏んだのだった。

私の沖縄の第一印象は、非常に風光明媚な所であるということ。うららかな青空の下、いたるところ青々とした海原、清らかな砂州、そして色とりどりに咲き乱れる美しい花々、緑の芝生が目飛び込んできた。毎年沖縄を訪れる観光客は250万人を超えるという（これは沖縄の人口の2倍）。私

たちの訪れた海洋博記念公園、伊紀島や東南植物園の中には、さまざまな形をした極めて珍しい色彩の美しい珍魚、名前も知らない花や木がところ狭しと置かれ、大いに私の視野を広げてくれた。目を奪われたイルカショー、特にイルカの絶叫には、みんな笑いこぼしてしまっただけでなく、沖繩は大自然の美を有しているばかりでなく、沖繩の人々も歴史文化財の保護に力を入れている。島には数限りない博物館や、よく保護されている伝統的な民家があり、そこをのんびりとさまよい歩けば、往時の沖繩の姿を思い起こすことができ、沖繩の歴史の壮大さ美しさに思いをはせることができる。

沖繩の風光明媚さ以上に、沖繩の人々はもっと美しいと思う。これが私のもうひとつの印象である。この美しさというのは、生まれながらに美しい沖繩の女性の姿に、具体的に表れているばかりでなく、沖繩の人々の心の中に宿っている。海が薫育してくれたのかもしれない。沖繩の人は海を思い起こさせる。温かく、心優しく、純真で……。

私たちは沖繩に到着後、バスで自治会館に向かった。バスガイドの土地さんは、温かい歓迎のあいさつで私たち一行を迎え、続いて沖繩の民謡を披露して下さった。おかげでまるで自分の家にも帰るような楽しい気持ちになった。その後、県庁の出納長の表敬訪問や沖繩電力、海洋博記念公園、オリオンビール工場等の訪問、そして沖繩の青年たちとのボーリング大会等々多岐にわたる温かいもてなしに大変感激した。特に私にとって終生忘れることのできない思い出となったのは、沖繩でのあの2日間にわたるホームステイのことだ。ホストの方々のいたれりつくせりのもてなしを受けた。

私と徐羅生さんは、沖繩電力(株)にお勤めの、仲真良明さんの家にお世話になった。仲真さんご夫妻は彼のご両親そしてふたりのお子さんと同居され(上の男の子は東京で勉強中)、東方の伝統を守っている典型的な家庭で、みんな老人を尊び、子

供を大切に、仲睦まじい家族で、とてもうらやましく感じた。仲真さんご一家との交流を通じ、私たちは祖先の祭祀、建築様式、重陽節を迎え、端午節句に竜舟で競漕する等、沖繩と中国はいろいろな面で似ていることを発見した。特に、沖繩の方言は、福州方言と非常に近いのだ。例えば、「三弦」を沖繩では「三線」といい、発音も(sansian)といい、「拔郎鼓」を沖繩でも「拔郎鼓」(balangu)と発音し、「空心菜」と「猫」を福州方言と沖繩方言でどちらも(mongcai)、(maiyan)と言う。風俗習慣が似ているので、仲真さんのお宅にいても他人の家という感じがまったくせず、家族の方々と深い友情のきずなができたように思う。ほとんどお互いの言葉は通じなかったが、中国語、日本語、英語の単語の羅列、そして身振り手振りでもって、お互いに第三の言葉を創り出し、毎晩夜を徹して話し込んだ。これは、どこでもでき得ることではないと思う。これこそ心と心の交流だと思う。

12月12日、沖繩を離れるとき、お互いに名残は尽きず、別れを惜しむ気持ちで胸がいっぱいになった。琉球大学の我部政男教授が空港まで見送りにきて下さり、目にいっぱい涙をためてみんなに別れのあいさつをされ、また、沖繩県国際交流財団の金城さんが涙を流しながら、ひとりひとりと別れの握手をしているとき、みんなの心は、言ひようのない思いで胸がいっぱいになり、そのままずっと手を握り続けることもできなかった。もしも1秒でも長くそこにとどまっていようものなら、涙があふれてきそうだったから。

沖繩紀行は、終生忘れることのできない素晴らしい思い出となった。沖繩と福建は海を隔てて向かいあい、歴史的にみても盛んに交流が行われ、風俗習慣もとても似ているというバックグラウンドに、更なる友好関係を築き上げてきた。沖繩と福建の人々が今後とも末長く友好的に付き合い、双方の経済文化等の交流を更に発展させるため

に、微力ではあるが、持てる力を出していきたい  
と思っている。

## ホームステイ



孫 雲凌

経済・貿易実務者グループ

中国青年実業家訪日団のメン  
ンバーとして、「日中青年の友  
情計画」に参加し、日本に1

カ月間滞在した。1カ月の間に、日本側は日本青年  
との合宿、交流パーティー、見学、表敬訪問など  
のいった日程を組んでくれ、そのプログラムは  
すべて印象深かった。特に、忘れられないのはホ  
ームステイであった。

ホームステイというのは、普通の日本人の家に  
泊まり、日本人の生活習慣、たとえば衣、食、住  
などの日常生活、風土人情などを体験すること  
によって、相互理解と両国民の友情を深めること  
である。ホームステイに参加することは、日本語  
の基礎しかわからず、外国へ行った経験もなく、外  
国人との接触する機会もほとんどなかった私にと  
っては、勇気のいることである。実をいうと、最  
初は気が重かった。というのも、万一自分の不注  
意が中国人のイメージダウンにつながったり、ま  
た、日本人の心を傷つけたりしてはいけないと思  
ったからである。しかし、終わってみれば、私の  
心配はまったく余計なものだった。ホームステイ  
先の家族の一員になれたときに、日本人の親切さ、  
優しい心づかいが私の緊張と不安を吹き飛ばし  
た。2日間のホームステイは、アッという間に過  
ぎ、別れるときには、名残惜しむ気持ちでいっば  
いだった。

私のホストファミリーは照屋文雄さんで、還暦  
になろうというのに、琉球テレビの事務局長を務  
めている。照屋さんは教養豊かで紳士的であって、  
若いときに米国に留学し、オープンでしかも実直

な性格の持ち主である。彼の奥さんも心のとても  
優しい方である。たぶん照屋さんの影響を受けた  
せいか、彼の子供たちも中国から来た私に親切に  
接してくれ、私たちはすぐに友達になった。照屋  
さん一家は誰も中国語ができないので、私は下手  
な日本語で交流しようと一生懸命に努力した。私  
はみんなに中国について紹介し、そしてみんなか  
ら日本のことを説明してもらった。終わってみる  
と、言語の違いは互いの意思疎通の妨げにはなら  
なかった。彼らのにこやかな表情や笑い声から、  
私に対する深い友情を感じ取ることができた。言  
葉が通じないときは身振り手振りで交流し、それ  
でもだめなときは漢字で筆談した。幸い、日中両  
国は漢字という共通のものがあるので、書けばす  
ぐわかる。もし日本を理解すること、中国を紹介  
すること、友情を深めることが今回の目的である  
というなら、私はそのために最大の努力を払った  
と胸をはって言える。無論、個人の力のごく限ら  
れたものでささやかなことしかできなかったが。

2日間のホームステイは充実していて、楽しか  
った。私は照屋さん一家の私に対する、広く言え  
ば日本国民の中国人民に対する温かい気持ちと深  
い友情を一生忘れることはできないであろう。私  
はこの思いを中国に持ち帰って、日中友好の発展  
のために微力を捧げたい。

## 徳島でのホームステイで感じたこと



護 和

文化・教育関係実務者グループ

12月7日の午後、私たちは  
徳島青少年会館に集まって、  
ホストファミリーが来るのを

待っていた。そのときの心境と言えば、複雑極ま  
りなかった。ワクワクすると同時にかすかな不安  
も覚えた。この世の中で30数年間も過ごしてきた  
というのに、なぜそのとき、まるで孤児が主人に

引き渡されるのを待つような気持ちだったのか。これは、アジア人のウィークポイントであろうか。

5時過ぎ、ホストファミリーが皆集まり、部屋の中の雰囲気はすぐににぎやかになってきた。ホストファミリーが私の前に来たとき、不思議と気持ち急が落ちていた。彼女の笑顔と素朴なようすが私を安心させたのかもしれない。

玄関を入ると、ホストファミリーがすぐに家の中を詳しく私に紹介してくれた。私も各部屋と部屋の中の物をしっかりと見せてもらった。私の知っている日本人家庭のようすとほぼ同じで、近代的なものもかなりそろっている。しかし、家屋の構造や、家具、装飾品などは伝統的な日本文化の色彩に富んでいる。たとえば、畳、神棚、和服などがそうである。物文化が氾濫する現代、日本国民がねばり強く伝統文化や風俗習慣を守っていく姿勢にはまったく敬服する。このことを通し、日本民族が今日のように社会を発展させてきたことは、日本民族特有の精神と関係があるのではないかと感じた。日本は世界各民族の文化（有形、無形）を吸収すると共に、同時に自分たちの文化の特有性——“民族精神”を充実させかつ強調し続けてきた。こういう精神があるからこそ、日本の経済は急速な発展を遂げたのであろう。

私がホストファミリーの家にいる数日の間に、何人かの若い人に会う機会を得た。彼らには盲目的に西洋、特にアメリカを崇拜する傾向が見られ、伝統的な精神が薄れつつあるのに気がついた。これは日本民族の衰退を意味しているのだろうか。そうだとすると、日本経済の停滞や後退をもたらすことになるのだろうか。私が日本の土を踏んだときから、日本の学界もこのような現象を察知し懸命に防止しようとしていることに気が付いた。しかし、その効果はあまりあがっていないように思われる。では、いったいどんな措置を取れば効果があるのだろうか。中華民族や他の民族がいかにかに民族の伝統文化を継承して、それを社会の発展

に活用させるかという課題は真剣に検討する価値があると感じた。

話を戻して、徳島でのホームステイの感想を述べさせていただきたい。ホストファミリーと晩ご飯を一緒に食べるときに、私がはしをとるや、みんながどっと笑い出した。ご主人の石井一雄さんと同じく左ききだったからだ。カメラを取り出して写真を撮ろうとしたら、みんながまたもや笑い出した。私の使っているカメラが、ご主人のと同じものだったのだ。私たちはお互いの似ている点を探し始めた。誕生日が同じ2月15日、趣味や嗜好も似ている。毎日1箱のたばこを吸い、ご飯の前にお酒を少し飲むことも好きで、会ったときに、互いに初対面の感じがしなかったなど。世の中にこんな偶然の一致があらうとは！ お互いに言葉は通じないけれども以心伝心、遠く離れた所に住んでいたのに、こんなに意気投合できたのは、神様のおひきあわせだろうか？ それとも、同じ肌の色、同じ信仰に由来するのだろうか？ これは感情、人間の本質、飾り気のない心の交流——つまり、“人と人の交流”にほかならないと思う。

これらのすべてが私にいろいろなことを考えさせたが、とてもこのような短い文章では表すことはできない。ここでは、ホストファミリーの皆様にご心より深く感謝させていただくのみとする。また、私たちを受け入れてくださったJICAおよび世界青少年交流協会関係者の皆様にご心より感謝を述べさせていただきます。中日両国民の友情が末長く続きますように！

## 徳島紀行



楊 流昌

文化・教育関係実務者グループ  
神のしわざか、それとも何か琴線に触れるものがあったのか、いや、魅惑的な徳島の

山河のせいだと言ったほうが適切であろう。私は飛行機から徳島の地に降り立つや、特別の親しみを感じたというか、何とも表現のしようのないくつろいだ気分となった。それまでに東京で出会ったものは、人に窒息させそうな圧迫感を与える高層ビルと騒々しい人と車の流ればかりであった。しかし、徳島は違っていた。ここで人々を迎えるのは広大な紺碧の海と吉野川の穏やかな流れ、絵か物語の中のような美しい秋の色に染まった山であった。徳島県のこぢんまりとした街並みには、所狭しと立ち並ぶ高層ビルもなく、縦横無尽に広がる交通網もなく、刺激的な巨大広告もなく、騒々しい人波もなく、また、耳をつく機械の騒音もなかった。大地に降り注ぐ太陽の光でさえも、東京よりやさしく感じられた。私は徳島が大好きだ。なぜならここがあまりにも美しいからだ。もし、東京を熾烈な戦いを繰り広げている競技場というならば、徳島は風光明媚な田園と山村である。ここでは、人々は世の中の一切の煩惱を捨て、自然の恵みである美しさを存分に受け、真心とやさしさを心ゆくまで味わっている。

私がこう言ったからといっても、徳島が修養を積んだり、悠々自適に過ごす、活気に欠ける保養地というわけではない。断じて違う！ 数日間、私は徳島で見学や、交流、座談を行い、また、土地の人と共に暮らし、仕事をした。これらを通し、私は徳島は眠りから醒めたばかりの虎のようだと心から感じた。まだ少しばかり寝起きの朦朧とした感じはあるものの、少したてば、中にひそんでいる威光と勇ましさを、そして、すべてを圧倒するような気迫が日本を震撼させ、世界をも震撼させるであろう！

徳島は教育を重んじ、文化を重んじ、そして若い世代の民族のフロンティア精神を養い、力を発揮させることに力を入れている。徳島の人々は過去に輝かしい時代があったことを胸に刻み、自らの民族文化の伝統の継承と保護に力を入れ、また、

自らが生活をしている土地に、いまだ阿波踊りや藍染め、人形浄瑠璃等の豊かな伝統文化財を守っていることを誇りにしている。

徳島の人々は、勤勉で素朴であり、誠実で率直である。彼らは直面している問題から目をそらさず、困難を克服し、劣った状況を改善するべく現実にそくしたマクロ的な構想をうちたて、それが一日も早く実現できるよう懸命に努力している。大鳴門橋、高速道路、文化の森総合公園、大塚製薬……、これらすべてが徳島がまさに飛び立ち、世界の先端の流れに追いつこうとしていることをはっきり示している。

大塚製薬川内工場のホールで、木のオブジェと水耕栽培のトマトを見た。1本の真つすぐな丸太が何の支えも釘も使われずにもう1本の丸太の上にどっしりと斜めに置かれている。台座になっている丸太は強い力で人工的に曲げられているのに、まったくその痕跡が見られない。200平方メートルの広さの屋根を覆っているのは、わずか4本の普通の水耕栽培のトマトにすぎないのに、毎年2万個以上の実をつけるという。このような丸太の置き方、このような変形のさせ方、このような栽培方法は、皆非常に不可思議なものであるが、ここではそれが現実のものとなっている。大塚製薬の人がよい説明をしていた。「私たちがこのふたつの事実を展示しているのは、ひとつの真実を分かってもらいたいからです。それは、常識では考えられないことでも努力さえすれば実現でき、また、見慣れていることでも、角度を変えてみると、往々にして想像もつかない結果を生み出すことがあるということです」。

これこそが徳島である。これこそが徳島の自信である。私はここに徳島の未来を見たのである。徳島に心を奪われたひとりの外国人として、徳島が大きく繁栄する日が一日も早く訪れることを願ってやまない。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

#### 合宿交流会に参加して

高田 政衛  
公務員

私の勤務する八ヶ岳には、毎年中国東北地方から6名の青年農業指導者が入学してくる。そのため中国に関するある程度の知識は持っている。またその関係で3年前に10日間ほど訪中の機会にも恵まれた。今回の中国青年実務者との合宿交流会には、中国に関する知識を更に深めるために参加させていただいた。2日間に渡って開かれた分科会では、お互いに慣れて来るにつれてなごやかな雰囲気となり、司会者と助言者の巧みなりードにより、少し堅い討議あり、ぐっとくだけた笑いありの、極めて友好的な楽しい交流ができたと思う。農業の問題から税制度、土地の所有、流通（自由市場）、普及活動などについて、双方から意見交換を行った。そして家庭生活、結婚問題、余暇の過ごし方などの身近な話題では、終始笑いの絶えない雰囲気では進行したように思う。特に盛り上がったのは、「家庭で誰がサイフを握っているか」という話題で、中国のほうから「給料をすべて奥さんに渡すと必ず家庭が円満になるのか」という面白い質問が出され、賛否両論にぎやかに会場が湧き上がった。最後に、中国の皆さんから、日本の印象を発表していただいた。そのごく一部を紹介すると、資本主義、自由主義ということで社会が自由勝手に動いていると思っていたが、実際は自由な中にもきちんと統制がとれていたこと、工業国というイメージが強く、自然破壊が進んでいるのではと思ってきたが、それほどではなく、よく保護されていたことなどだった。そして今回の

訪日では、言葉が、通じないから深い交流は無理であろうと思っていたが、この分科会でかなえられ本当によかったということだった。通訳の大倉さんには大変御苦勞をかけた。分科会終了の際、思いがけず中国の皆さんからお土産をいただき、大変恐縮した。私たちは用意していなかったのが心残りではない。次回からはプレゼント交換などあってもよいのではと思いながら、皆さんと別れた。再見。

#### 合宿セミナーに参加して

山田 一功  
自由業

平成2年12月2日から4日までの日程で、(甲)甲府青年会議所の代表として富士箱根ランドにおいての当該合宿に参加した。担当が(甲)全国農村青少年教育振興会ということもあって、日本側の出席者の中でわれわれの存在は異色であった。甲府青年会議所から私も含めて4人が出席したが、分科会では各々各グループに分かれた。私の第4グループでは農業問題が中心に討議されたが、農業中心で立国している彼らにとって、資本主義経済においては農産物といえども商品のひとつにすぎないということを理解させることは大変なことであった。というのも、昔わが国でもそうであったように農産物（特に米）が特別な地位にあった時代と違って、今は量より質、消費者ニーズに合致したものでなければ商品とはなり得ない実情や食の変化、多様化の中で農業が生きなければならない現状はなかなか理解しがたいことであつたらう。しかしながら、そこは若者同士、体制の違い、価

値観の違いを超えて、夜は中国産のワインと山梨産のワインを飲み比べたり、彼女や奥さんのことに話題が飛んだり楽しい交流ができたと思っている。特に2日目の夜は深夜、彼らをラーメンを食べに連れ出した。餃子にひどく感動した新疆の馬さん、山梨のワインをほめてくれた李さん、ラーメンを喜んだ金さん等々、今も彼らの笑顔が思い浮かぶ。これでよかったのかな？喜んでいただけたかな？こんなことも気にしながら富士箱根ランドを後にした。

## 合宿に参加して

高柳 靖子  
公務員

とにかく、大勢の中国人と生活を共にするのは、私にとっては初めての体験であった。まず、言葉の問題がある。これはコミュニケーションをとるうえで最大の問題点だ。何はともあれ、紙と鉛筆は肌身離さず持っていなければなるまい——等々思いを巡らしながら、集合地の浅草ビューホテルへと向かう足にはいつになく力がこもっていた。しかし、「案ずるより産むがやすし」で実際接してみると、英語、中国語、身振り手振りに絵までが飛び出して、何とかコミュニケーションをとることができるのである（もっとも、たどたどしい言葉遣いに耳を傾けてくれた彼らに第一に感謝すべきなのだが）。特に夜の酒と歌を介しての交流、とりわけ最後の晩のダンス・パーティー（ソシアル・ダンスから盆踊りまで入り乱れ）などでは、言葉の違いを超えて親睦を深めることができた。

合宿も終わりに近づいたころ、「言葉は通じなかったけれど友人を作ることにはできた」と中国の青年は笑顔で話してくれた。合宿終了後、日を置いて催された送別会では、別れ際に涙を浮かべながら握手を求めてきた友人もいた。言葉は所詮は自

分の思いを伝える手段のひとつにすぎない。必要なのは相手への思いやりの心である。つたない言葉のやりとりであっても、相手への思いを込めたものならばどうやら心を交流させることはできるらしい。今回の合宿参加では思いもかけずたくさん心と出会い、交流することができた。こういった出会いの場に巡りあえた好運をただただ感謝したい気持ちで一杯である。

しかし、つまるところ相手を理解するにはやはり言葉が解せねばなるまい。実際合宿中でも、言葉の不自由さから深い所まで話じきれず、歯がゆい思いをしたことが多々あった。未熟な中国語に磨きをかけて、今度はぜひこちらのほうから中国の友人たちに会いに行こうと思っている。

## 合宿セミナーに参加して

橋本 敬二  
公務員

今回の中国実務者との合宿セミナーに参加させていただき、二点ほど感じたことがあった。まず第一に、日ごろから日本人は世界でも有数の国際情勢・情報を知っている人種ではないかと思っていたのだが、これはどうも世界の一部、たとえばアメリカ・ヨーロッパ等の先進諸国の情報だけを知っているだけであってアジアやアフリカ等の発展途上国についての情報についてはほとんど知らないということがわかったことである。日本においては、毎日の新聞・テレビ等のニュースにより世界中のどこでどんな災害が発生して、どこで事故がおき、世界の人々がどんな生活をしているのかを映像で、記事で日常だれでも知ることができる。

中国についても、天安門事件等の事件あるいは地震等の天災、国民の日常生活についても知る機会があったと思っていた。しかしながら、今回中国の参加者と話す機会をもって、マスコミから知

らされる自分の知識が中国についてのほんの一面でしかないことを知った。中国では毎朝市民が、太極拳をしてはならず、実際やっているのは、老人だけである。若者は老酒よりビールのほうが好きである。中国最高峰はチョモランマである。

ほんの一部でしかない知識を、すべてのものとしてしまうことは、外国人が日本人に持っているイメージとなんら変わらない。このことは日本人が知っていると思っている知識というものは、マスコミから得られるほんの一面でしかなく、このことですべてを知っていると思うことは、大変な間違いをおこすことになりかねないのではと思う。やはり知識は目で見て、手に取り確認しなければならぬ。

また、第二に感じたことは、言葉の重要性をはっきり知ったことである。今まで欧米人との対話であれば、言葉が通じないことにまったく違和感を感じていなかったが、こんなに身近な国、たとえば一目見ただけでは日本人か、中国人かわからない隣人と言葉が通じないことには、大変苦勞し、また慌てさせられた。今回参加して言葉の重要性を深く認識した。

今回の参加によって、中国における政治・文化・商業活動のわが国との違い、また中国人の性格・意識、そして中国の大きさを知ることができた。自分の勉強不足により中国人の問いに十分な解答ができなかったことについては大変反省しているが、自分にとって大変勉強になった4日間であった。

## 中国青年と過ごした1週間

金城 千代子

団体職員

今年の“21世紀のための友情計画”は、中国青年が来日するというので、まず心配したことは言葉の問題だった。

中国語といえば、「你好」しかわからない私だったので、どういうふうに意思疎通をしたらいいものかと考えた。そして、それをきっかけに私の中国語学習が始まったのである。それは彼らが来日する1カ月前のことだった。

また、中国人と接する機会の少ない私にとって、沖縄でのプログラムがどうしたらうまくいくか、初めて訪問する沖縄のことをどう説明したらよいかなどいろいろ悩んだ。彼らに会うまでの間は、ほんとに落ち着かない毎日だった。

私が彼らに初めて会ったのは、浅草ビューホテルだった。その日、私は、11月29日から富士吉田市で行われる研修に参加するため、上京していた。彼らに会って、とにかく何か話さなければと思ひ、早速つたない中国語で「こんにちは、私は沖縄県国際交流財団に勤めている金城千代子です」と自己紹介すると、とても喜んで握手を求めてきた。こういう風にして、いよいよ中国青年との交流が始まったわけである。

ここでは、私は沖縄滞在プログラムに関してだけ、感想を述べたいと思う。

彼らはここ沖縄に、12月5日～12日まで滞在した。彼らの感想にもあったように、沖縄は中国と共通する点が多く、違和感なく沖縄での滞在をエンジョイしていたようである。また、沖縄での見学もさることながら、2泊3日のホームステイは、彼らに深い印象と喜びを与えた。言葉の壁を乗り越え、彼らはそれぞれの友情をつちかった。言葉が通じないというのを第一の問題点として心配していたので、皆が筆談やボディランゲージで必死に意思を伝えようとしている姿を見て、とてもほほえましいと同時に、私たち職員もホッとした。

沖縄という土地をまったく知らなかった彼らが、こんなに沖縄のことを愛し、また、理解してくれたことは、私の最大の喜びである。そして私たちは沖縄のいろいろなことを教えるだけでなく、彼らからも多くのことを学び受けた。

それから、日本青年との交流ではボーリング大会を実施した。中国青年にとっては初の試みで、最初は溝そうじばかりしていた彼らだったが、回を重ねていくうち要領を得、皆、夢中になって取り組んでいた。とにかく意外な盛り上がりで、緊張をほぐす意味でも実施してよかったと思った。

25名という中国青年の人数が多すぎて、ひとりひとりとゆっくり話す時間が持てなかったことは残念でならない。彼らを通して、今まで中国人に対して持っていたイメージが幾分明くなくなったことは確かである。一般的に中国人は、“ホンネとタテマエ”で生きている人種だときかされてきたが、今回私が出会った仲間はホンネで接してくれた。

会話が通じなくてもどかしくなったり、言葉が通じないときは笑ってごまかしたり、身振り手振りをしてもらえなかったり、コミュニケーションの上では、ほんとにスムーズに行くことは少なかったが、それでも思い出をいっぱい残すことができた。

軽く「你好」で始まった「21世紀のための友情計画」は、ほんとに爽やかな1週間だった。

お別れの日、寂しくなって泣いているところに孫さんが来て、「カンシン、カンシン」と連発していた。後から聞くとところによると、孫さんは「感謝している」というふうに言いたかったらしく、涙も一気に乾き爆笑の渦だった。

ほんとに胸に残る充実した、楽しい1週間だった。 再見・・・

---

## 中国青年との交流から得られたこと

飯岡 聡子

団体職員

11月30日から12月3日までのわずか3泊4日の熱海の合宿だったが、中国の青年の方々との交流を通して、日ごろの生活では得ることのできない

貴重な経験をさせていただいた。

中国は隣国であるにもかかわらず、私たちはあまりにも無関心すぎるように思う。話し合ってみるといろいろ共通点もあり、過去には深いかかわり合いがあったことを感じる。たとえば子供のころの遊びで、たこ上げ、こままわし、竹馬、羽根つきなど日本独自のものだと思っていたものがお互いにあるのは驚きだった。また、工芸などの分野においても多くの影響をうけてきた。

今回は、日本の文化・伝統についても改めて考えさせられた。古くから受け継がれてきた日本の芸能・工芸などに、もっと目を向けなくてはいけないのではないだろうか。質問をうけても適切な説明ができないのは残念なことだと思う。

今後日本と中国は経済的、文化的、多方面にわたって今まで以上に深くかかわっていくことだろう。

今回だけに終わらずに、これからも交流を続けていきたいと思う。

---

## 中国との新しい出会い

田所 真

公務員

去年の春、私は大学時代に師事した先生が中国に留学なさったことを機会に、北京と大同に旅行した。北京では故宮博物院や北京動物園、頤和園などのほか、2、3の遺跡を訪ね、古書店めぐりもしてきた。大同ではもちろん雲崗の石窟などを訪ね、一般の観光客では入ることのできない石窟の中まで、管理されている方のご好意で見学させていただいた。

北京と大同を往復する列車の中でも、中国の方のほうから声をかけてくださったり、いろいろと面倒をみてくださった。とても広くて、友好的な国だというのが私の中国に対する第一印象となった。

さて、今、「21世紀のための友情計画」の合宿セミナーから帰宅して思うことは、言葉が通じないことの不自由さである。ディスカッションや親睦会では通訳のかたを介して意見の交換ができた方々とも、食堂や風呂場では「你好」とあいさつするぐらいで会話らしい会話もできず、少し話をしても後が続かないのでニコニコしているだけになってしまった。行きのバスの中では、その後に待っている自己紹介のこともあって、なんとか話をしようと悪戦苦闘したが、帰りのバスでは連日の疲れもあってか、お互いに声を掛けあう気力もなくて、いつの間にか眠ってしまう始末だった。

直接彼らと話ができたら、もっともっと聞きたいことがあったし、なにより、もっともっと話したいことがあったのに……。せっかく友達になれたのになんと悲しいことだろうか。中国旅行ではまったくといってよほど感じることをなかった言葉の不自由さを、日本にいて感じるようになってしまったのである。しかし、このことは逆に、中国の文物を見ることだけで満足していた私が、今回の合宿セミナーを通して中国と新しく出会い、より深い交流を求めようになったということにほかならない。

彼らは、常に友好的で温かく接してくれたし、彼らと私たちとの考え方、感じ方にも、なんら変わるころはなかった。ちょっと大げさな表現になるが、彼らも私たちと同じ人間なのだということを実感することができた。「中国との新しい出会い」とでも呼ぼうか。

今回の合宿セミナーでの最大の収穫は、多くの友にめぐり会うことができたことだ。特に、同じ班で交流の夕べまで準備と練習を重ねてきた5人の仲間、行きのバスで自己紹介のレッスンをしてきて以来の旧友ふたりなどとは、今後も文通を通じて交流を深めていきたいと思う。

また、今回の機会に知り合うことのできた日本の皆さんとも、長くつきあっていけたらと願ってい



る。

这次我們算是新朋友、但是下次来的時候、我們就是老朋友了。

再見。

## 好朋友—old friend

福永 禎夫  
学生

分科会ディスカッションが始まった。文化、社会、教育、の各分野についてお互いの意見を交換した。中国人青年はまじめで誠実という印象である。その中で特に張さんの意見が強く私の心に残っている。その内容は次の通りである。

「このディスカッションで、私は日本の青年とタテマエ抜きでホンネで話し合いたいのです。そのために中国から来たのです。私は、日本がとても好きです。容姿も似ているし、家族のように思っています。日本の街は漢字も多く、半分以上の意味が理解できます。中国は今、日本よりも後れています。われわれ中国人は優秀であるというプライドを持っていて、必ず日本に追いつくことができと思っています。——中略——だからどうか日本の青年の皆さんもホンネで話し合いませんか」

張さんの目はとても真剣で、私はしばらく言葉

に詰まった。中国と日本の間にはかつて大勢の両国民の意に反する不幸な時代があった。しかし、中国青年の方からホンネで話し合えようという意見がでてきて、日本人としてとても恥ずかしい気持ちになった。

張さんと私の意見が対立するところもあった。国の体制や社会の組織が違うのだから、と言ってしまうとそれまでかもしれない。お互いの意見が険しくなってきたときである。突然張さんのほうから握手を求めてきてくれた。私もおもいきり握り返した。彼は「好朋友 (old friend)」と言ってくれた。このことを私は一生の宝にしたいと思っている。

---

## 夢の4日間

松尾 昌彦

公務員

まるで夢のような4日間であった。合宿セミナーを終え、雑務に追われる日常に戻った今その思いが強い。

今、夢を思い出すように合宿セミナーを振り返ってみると、最も印象に残っているのは、参加者の精気あふれる顔である。とりわけ、職場に戻って仕事に疲れた精気のない同僚の顔を見たとき、セミナー参加者との差の大きさに驚きを覚えた。しかし、一方で同僚と同じような顔に戻りつつあ

る自分にも気付かされ、同時に、他の参加者たちは職場でどのような顔を見せているのだろうかとの思いにも捕らわれた。

今思い返してみれば、合宿セミナーの活発さは中国青年のそれによっていた部分が大きかったように思われる、醒めてしまえば、これほどつまらないものはない交流の夕べの班ごとの出し物についても、中国青年の熱心さに引きずられるような形で練習を重ねることとなったし、分科会ディスカッションも多くの意見を交換する有意義なものとなった。いずれの場合でも、日本側との交流を深めたいとの中国青年の熱意が感じられ、とりわけ、各班ごとに行った夜の懇親会で聞く生の中国生活の話は興味深いものであった。

もちろん、日本側のメンバーの印象も強く、特に、分科会ディスカッションで発言がとぎれたときに出された同じ班のメンバーからの活発な問題提起には、本当に助けられた。

ほめてばかりで自分で書いていささかむずがゆいが、実際職場に戻り、<sup>まっ</sup>瑣末な出来事ばかりの日常から振り返ると、ちょうど学生時代を思い出すような感じがしている。もちろん、あのような日常の利害に関係しない合宿だからこそその活発さもあるのだろう。それぞれ職場に戻れば、また違った顔を持っていることだろう。願わくば、再び参加者たちと再会するときにも合宿のときと同じ顔で会いたいものだと思っている。

## 4. ホストファミリーの思い出

### ホストファミリーを引き受けて

伊藤 康弘  
岐阜県

今回の「21世紀のための友情計画」の地方分野別プログラムのホストに選ばれ、本当によい体験ができたと思う。

言葉や文化、生活習慣が異なる中国青年を迎えるにあたって、どうしようかと思い、それなりに日常会話の勉強等をして準備をした。

ホームステイが始まり、ふたりの彼女たちを迎え、最初は私たち家族や彼女たちも緊張していたが、夕食後にジェスチャーを交えながら筆談で話し合うにつれ、緊張もほぐれ楽しい交流ができるようになった。彼女たちにひとつでも多くの日本の文化を知ってもらおうと、娘たちの和服を着せてあげたら大変喜び、日本人の衣文化を肌で感じてもらったと思う。

また、わずか半日ではあったが農作業にも積極的に参加してくれたり、園芸、養豚、酪農等周辺農家を案内し、日本農業を勉強してくれた。

2日目の午後には、夕食は自分たちが中国料理を作りたいとのことで、彼女たちと近くのスーパーに買い物に行き、本場の中国料理に舌つづみを打つことができ、中国の食文化の一部を垣間見ることができたと思う。

3日目には、朝から役場へ彼女たちと表敬訪問をした。役場からわが町の農業の概要説明があったが、幸いに中国人通訳の方のおかげで、彼女たちにも理解してもらえることができたと思う。

わずか3日間のホームステイで、打ち解け合えたと思ったら別れのときとなり、残念であったが、

ホストとして大変よい勉強ができ、うれしく思う。今後、機会があれば、今回の経験をもとに、さらに充実したホームステイができるように、広い視野を持って勉強していきたいと思う。

### 貴重な経験

薰田 信子  
岐阜県

中国青年のホームステイを引き受けるにあたり、責任の重大さを感じるとともに、興味や関心も強く持った。

交流を深めようと、中国語、日本語以外にも、英語、ジェスチャー、紙に書いた漢字とさまざまな方法で会話した。

李さんが弾くピアノと一緒に口ずさんだ日本の歌には温かいものがあり、歌には国境がないということに改めて実感した。

歌を口ずさんだことにより心も通じ合い、お酒が入ることによってユーモラスになり、幅広く話がはずみ、楽しいひとときを過ごすことができた。

また、子供たちとの会話には、同世代同士で共通な話題も多いことを感じた。中国青年の日本への関心は、とても深いものであり、文化、産業への研究熱心な姿勢には心を打たれ、彼らこそがこれからの中国を背負って生きる青年だと感じた。

短い期間だったが、家族の協力もあり、楽しい思い出となった。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

## ホストファミリーを引き受けて

道家 勝子  
岐阜県

「21世紀のための友情計画」による実務者のホームステイを、岐阜県指導農業士会で実施とのことであり、初めて外国人を受け入れるホスト役には、まず言葉と、交流手帳を一生懸命に読んだり、発声練習等四苦八苦。

しかし、実務者のひとりが日本語の上手にできる方だったので政治、経済、教育、農業等おもしろおかしく情報交換ができ、時間のすぎることを忘れるほどの3日間だった。

特に、印象に残ったことは日本人としてはよく手伝ってもらえる主人と思っていたが、中国人から見れば、不思議に動かない人だそうだ。「道家さん宅は大丈夫だね」と何度も言われ主人は喜んでいて、その意味を聞くと、「中国ではなにごととも平等で働く。家事、掃除、洗濯、お互いに誰がすると決まっていることはなく働く。道家さんは大丈夫というのは、中国で言う頑固な人という意味で、良くない夫ということだ」と言われ、主人は困っていた。

このような和やかさに、時間を忘れるほどに交流を深めることができ、お互いに協力を努めあえば両国とも素晴らしい国になることだろう。

ホームステイを終え、本当に国際的な勉強ができたが、至らぬことばかりで申し訳なく思っている。チャンスがあれば、これ以上に頑張りたいと思う。

最後に、主人に今まで以上に手伝ってもらうことができるようになり、本当に助かっている。これも黄さん、金さんのおかげとに感謝している。

## 昔からの友人

古川 正敏  
岐阜県

中国の実務者のホームステイの話があったとき、家族から、「どうして、言葉は、食事は」と、まるで宇宙人でも招待したような、げげんな表情をされてしまった。

しかし、本決まりになると家族も、人間は人間、なんとかなるさと、開き直りでその日を迎えることになった。そうは言うものの、実務者ふたりと対面し、わが家へ、連れてくる車中では、何か話さなくてはと、気ばかりあせて、日本語、英語、中国語と悶々とするうちに、一言も言わないで到着した。

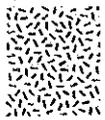
家の中を案内するうちに、身振り手振りで意思が通じたらしく少しほっとして、何とかかなりそうだという気持ちになった。

居間にあぐらをかき、漢字による筆談を始めると、驚くくらいよく理解できた。つい先ほどまで、お互いに心の中に抱いていたさまざまな思いがあふれて、書いては相手の顔を見、書かれては書き返すということを夜遅くまで、尽きることなく続けた。家族のこと趣味のこと、日中兩國のこと等さまざまなことを、思いつくままに話した。私の子供が「さくらさくら」と歌うと、「四季の歌」を中国語で歌ってくれた。なんとかなるさという開き直りの気持ちから、どうしてこんなにうまくお互いの意思が通じあえるのかという不思議な気持ちを抱くほどだった。

日常、私たちがなにげなく使っている漢字が、中国大陸から伝来したものであること、日本と中国とは遠い昔から友人であったのだということ、ホームステイを体験して、改めて痛感した。

彼らが帰った後、彼らのほのぼのとした人間性と中国への親しみが、今なおわが家に残っている。

\*\*\*\*\*



## ホストファミリーを引き受けて

桑村 英子

徳島県

原稿用紙を前にして、「ウワー、書けない感想文なんて」と12月1日の説明会の日のことである。

初めてホストファミリーを引き受けると決めてから、どんな人が来るのかしら？ 言葉は大丈夫かしら？ と心配ばかりしていた。

特に子供（高1の長男）には「そんなこと、勝手に決めて……」と頭から猛反対され、ますます不安が広がっていった。英会話を少し習っているとはいえ、1週間に1度、それも2時間足らずの勉強で、あとは何もしないのだから進歩するはずもない。説明会に来たのに、「断わろうかしら」とそんなことばかり考えていた。

そして、引き渡し当日、仕事が忙しく約束の時間より遅れてしまった。慌しくかけこんで、考える暇もなく対面となった。あいさつの言葉も何度も練習したのに、ただ頭を下げただけで本当に恥ずかしく思った。

でも、英語の話せない両親も身振り手振りで歓迎し、主人も早目に帰ってきてくれホッとした。全員そろっての食事でも楽しく、英語、日本語、そして筆談の中国語あり……、と大変にぎやかなものとなり、時間のたつのも忘れてしまうほどだった。

心配していた料理も、すきやき、おすし、焼き肉、カレーとなんでも喜んで食べてくれ、今までの不安はいつのまにか消えていた。

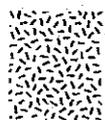
私が見知らぬ人を家へ招き入れるのに不安を持っていたように、彼にしても見知らぬ家へ来る不安は大きかったと思う。それなのにこの喜び、この満足感はどうしてなのだろう。

人と出会い、少しの間一緒に過ごただけなのに言葉に言い表せない感動を覚えている。お別れ会の日、思わず涙が出そうになって主人に笑われ

てしまった。出会いがあれば、いつかは別れがあることくらいわかっていたが……。彼がよい人だったし、私たちも家族全員で歓迎したからだろうか。今は、でき上がった写真を見て楽しかった3日間を思い出している。ホストファミリーを経験して、人の心は言葉や国の違いを超えて通じ合うものだと実感した。

貴重な体験の機会を与えてくださった皆様に感謝している。

\*\*\*\*\*



## ホスト役をさせてくれてありがとう

小西 淳一

徳島県

私は16歳まで、中国東北部（長春市）に居住していた関係上、1982年と87年の2回中国旅行（家内同伴、個人旅行）をして、常に中国大陸には関心を寄せていた。今は定年退職の身だが、合い間に中国講座に通ったこともあり、昭和54年から始まった中国残留日本人孤児の来日等、もっとも隣国としてあるべき将来像に近づきたい気持ちでいっぱいだった。

そうしたときに、今回のホームステイの引き受けのお話を聞き、喜んでお受けした次第である。

受け入れ家庭の説明会には、うれしき半分、なんとかして満足していただきたい、特に食事については無理のないものでもてなしを、と心配半分、中国への旅行注意はわきまえているつもりでも、とにかく気持ちよく帰っていただきたいと思う一念だった。

いざ受け入れの緊張した日からは、家族（孫9歳・4歳・2歳を含む計7名）同様の生活を味わっていただくため、また、リラックスしてもらうために、できるだけ身振り手振り、筆談を交え、会話をするように家族全員心がけた。

受け入れた嘉措<sup>ジャツォ</sup>さんはチベット在住の立派な紳士で、チベットのいろいろな知識を私たちに真面

目に教えてくださり、関心を深めさせてくれた。

今思えばこの3日間、テレビ・新聞のニュース等はまったく分からずに済んでしまったが、3日目最終日には、ちょうど市婦人連合会の舞踊、寸劇、民謡の催しに外国人来賓として招かれ、飛び入りで即席作詩の歌曲を中国語で歌うなど、忘れ難い思い出を作ってくださいました。また、周囲近隣の方々からの非常なご協力を得、本当にありがたいと思っている。

お別れに際しては、たった2泊3日の短い期間であったにもかかわらず、ホテルへの帰途上もこみあげる寂しさを会話にできず、それが心残りになって、寂しさを倍加させるような感じがした。また、起居を共にした今日まで、家族個々と触れ合った温かさは十分に満足していただけたものと、私なりに小さな誇りに思っている。

国内では今、あらゆる面で国際化を言われているときに、隣国外人との結び付きが深まることに、大きな意義のあることを感じる。

## 中国が近くなった

中野 統夫  
徳島県

訪日中国代表団の皆さんに初めて会ったとき、中国の皆さんの明るさ、人なつこいような人柄に、私は体中に非常に温かいものを感じた。

それから簡単な説明のあと、次々と中国の方々とはホストファミリーとの対面が続き、ついに岳喜朝さんと私たちの対面となった。背の高いスマートな体に、やさしそうな笑顔で、私たちに近づいて来る彼を見たとき、初めて会ったとは思えないような親近感を覚えた。

最初、中国代表団のことを聞いたとき、中国語はニイハオ、シェーシェーしか知らない私たち家族に、2泊3日の時間が無事に過ごせるかどうか、とても心配していたが、岳さんと共に生活してみ

ると、その心配も吹きとんでしまった。言葉は通じなくても、相手を知ろうとするお互いの心と心で、紙とペンで、時間はかかったが、あまり不自由を感じることなく意思は十分通じたように思われる。

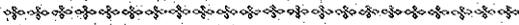
1日目は午前1時半まで、2日目は深夜0時過ぎまで筆談とジェスチャーで話し、本当に楽しく有意義な時を過ごすことができた。

私たち家族は徳島大学に留学している中国の人たちを数人知っているが、彼らも人柄といい、向学心といい、私たちには、とても真似ができないような気がしていた。そして今回、岳さんと3日間という短期間だったが、一緒に生活してみると、非常に礼儀正しいこと、私たちのことを気遣う彼の態度には、頭の下がる思いだった。今までも中国の人たちに好感はもっていたが、今回の体験でより一層その感を深めた。そして中国に新しい素晴らしい友人ができたことをとてもうれしく思った。

12月9日、ホテルサンルートで彼を引き渡したあと、同じホストファミリーであった友人と、お互いの訪日団員のこと、中国の将来のことなどを話し合ったが、今の中国の若者たちが中堅になり、その人たちが国を動かすようになったとき、中国はものすごく発展していくような感じがし、一方日本は、同じ型の個性のない人たちばかりで、発展のスピードは大きくダウンするのではないかと、という不安が、友人と私の頭をかすめた。

今回のホームステイは、岳喜朝さんのお世話をしたというよりも、私たちが楽しませていただき、また、勉強させていただいた。私たち日本人も、今の繁栄の上にアグラをかくことなく、おごる気持ちをもたず、一生懸命勉強と努力をし、そして心を広く豊かにして、中国だけでなく、世界の人々と友好を深め、共に助け合い、平和と発展を共に分け合うようにしなければ、と思われた。そして微力ながら私たちもその一員に加えていただこう

と思っている。



## ホームステイ断片

森 泰枝  
徳島県

### [出会い]

車の止まった音。期待と不安、それにいささかの好奇心で落ち着かぬ時をすごしていた家族が総出で玄関へ出る。

「コンバンワ」「ニイハオ」。お互いに相手国の、それにもわか仕込みのあいさつの言葉。続いて「オセワニナリマス」——相手の日本語。「いらっしゃい。ようこそ」——こちらの日本語。思わずほほえみ交わす。家の中を案内して、部屋に落ち着いてもらって、着替えをしておられる間の家族の会話は「気安い人やね。明るい人でよかったね」。

### [言葉]

人と人の交流は会話から始まる。さてその会話について。

まず、揚さんからは英語が出る、こちらは単語を連発して返事。「プリーズ、ディナー」。中学2年の娘が力強い通訳者となる。やがて、話が弾んでくると中国語が出てくる。こちらは全然わからない。紙、ペンがここで登場。以後いつでもどこでも紙と鉛筆持参となる。揚さんは達筆で、やさしく分かりやすい字を書いてくれる。そのうち問いかけに「?」特に相手の意思を聞くのに「希望?」が役立つことがわかる。地域の案内もしたが、案内板のある所では漢字を読んで、だいたい意味がわかったようである。地名、人名、その他固有名詞などは、ローマ字で発音を書けばよいことがわかった。

中国語、日本語、英語、それぞれしゃべりながら漢字で意味を、ローマ字で発音を。これがわが家のホームステイ会話となったのである。

### [主な話し合い]

1. 家族・日常生活のこと。物価の比較。
2. 職業・収入など。
3. 両国の教育制度、方法など。
4. 日本の印象について。
5. 趣味（文学、音楽）など。

### [話し合いのまとめ]

中国のスポーツの強い原因を質問してみたときの答え。

①人口が多い。大勢の中から優秀な者を選ぶことができる。

②政府が奨励援助している。

③現在人民の気持ちが前向きになっている。

これは中国のスポーツだけでないすべての方面へ力を入れている姿であろうと思った。話し合いの中に、社会主義、自由主義と国の方針は異なっても、自分の国を誇りに思い、愛している気持ちは、皆同じであることをしみじみ感じた。

### [別れ]

2泊3日といってもほんの短い時間であった。

別れの時が来た。家族全員で見送る。ここでも紙と鉛筆。「祈健康、幸福」「グッドバイ」「再見」「さようなら」。車が見えなくなるまで手を振った。



## ささやかな国際交流

伊志嶺 翠  
沖縄県

錢さん、王さんのおふたりが、私宅に来られると決まってからの10日間、どのようにお迎えしようかと、そのことばかりが絶えず心の中にあった。どんな人たちなのだろうか、中国の人たちは礼儀正しいと聞いていたし、要職に就いている人たちらしいから、種々の質問をされたらしっかり受け答えできるだろうか、言葉は、食事は、と。

そして歓迎会の席上、笑顔で握手したその瞬間に、すべての不安は消し飛んでしまった。本当に心の中にスーッと入って懐かしい人にお会いした

ような気持ちになったのだ。その時にホストファミリーとしての本来の目的、すなわち、あるがままの生活を見ていただくという、のんびりとした沖縄的思考感覚を取り戻した。王さんも銭さんも「よかった、よかった」とくり返し手を握ってくださったが、私たちより、もっと緊張していらっしやったのかもしれない。

主人とふたりだけの家族なので、友達にも加わってもらってのわが家での歓迎パーティーは、最高に盛り上がった。オペラ歌手の峰井浩子さんがピアノを奏でながら、その美声を披露してくださった。ふたりとも大喜びだった。お返しにと中国の温かい歌を歌ってくださった。最後には皆で大合唱。時間のたつのも忘れて話はつきない。簡単な中国語を習ったり、子供のこと、食事のこと、生活のこと、仕事のこと、銭さんの男の子(8歳)が囲碁の塾に通っていると聞いて、さすが中国と驚いた。職場では10時と3時に30分ずつの休憩時間があって、その間に卓球をしたりしていると聞いて、改めて自国の働き蜂ぶりを知ったりもした。後片づけも3人でした。とても優しく思いやりのあるふたりの言動は、今、私たちが忘れかけている、何もかも信じて素直に生きていた遠い昔を思い出させるものだった。

最終日、若竹保育園の園長さんのご好意で4・5歳児の子供たちによる“エイサー”はおふたりにきつと強い印象を与えたのではないだろうか。色紙でレイを作って待っていた子供たちは、遠い国からのお客さんを取り囲んで質問したり、さわったりして好意を示すと、王さんは子供を中国に残しての旅行だけに抱きしめて喜んでいた。また、銭さんは大の子供好きで一緒に輪に入って踊り出した。それは本当に美しい光景だった。国境を超えてひとつになった心が、紫色の衣装とともに風の中に舞っている。中国のことを学んで知識を深めたとしても、これほど端的に中国の人を愛する心が湧くだろうか。

こうして個人レベルのささやかな国際交流が、どんどん広がっていけば、その先に平和があるような、そんな思いにさえるのである。中国と聞いただけで、王さん、銭さんの顔が浮かぶ。人生の中での大きな思い出となるにちがいない、このような機会を与えてくださった国際交流財団に感謝している。



## 中国は日本の親国である

当銘 光政  
沖縄県

沖縄県国際交流財団からホストファミリーの依頼の電話があった。妻が引き受けを積極的に承諾してくれて私はとてもうれしかった。異国の人々と接触するのは、緊張感があって、またいろいろ興味がわき、毎日マンネリ化した生活に新風を吹き込んでくれるような気がする。

レセプションの会場で遠くから顔を拝見していると、中国の人々はみんな勤勉で気品のある方々のように見受けられた。それで、私と妻は応待に大変気をつかうのではないかと想像していた。ところが、近づいていってあいさつをすると(中国語は話せないので通訳の方に手伝ってもらって)、笑顔でとても喜んで「私は劉<sup>リュウ</sup>です。よろしくお願ひします」ととても上手な日本語であいさつをされた。もうひとりの方は田<sup>チエン</sup>さんで、同じように丁寧にあいさつをされた。

いったん交流をしてしまうと案外楽なもので案ずるよりも産む易しである。

劉さんと田さんをわが家に迎える日がやってきた。夕食後家族と一緒に話し始めたら、劉さんは英語が話せたので助かった。私も妻も英語は少し話すが、中国語はぜんぜんだめである。田さんは英語が話せないようで、ほとんど筆談で話すことが多かった。中国語は漢字なので、私たちが漢字で書いて示せばすぐわかってくれた。おふ



たりはいつも笑顔で好意的に話してくれるのでとても楽しかった。

中国の経済のこと、また教育のこと、浦添市は泉州市と姉妹都市になっていること、沖縄は昔、中国と親密に交流をしていたこと、私たち日本人は中国から漢字を教わったこと、文明、文化の源は中国であることなど、話は次から次へと続いていった。

また、私たち日本国民は過去のあやまちをよく反省して、真の意味の隣人愛を築かなければアジアの平和はつukれないのだと話した。

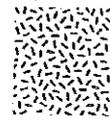
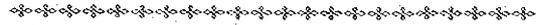
2年後に夫婦で旅行に行きたいと話したら、おふたりは大変喜んで、「ぜひ来て下さい、大歓迎します」と、漢字で書いてみせてくれた。

筆談の話には紙が20枚ほど使われたのである。余りの熱心な交流で時間が経つのも忘れるほどであった。時計を見たらもう午前0時を指していたので、明日の日程について話してやすむことにした。

2日目は浦添市の美術館を見学した。中国の漆器などを見て、沖縄と中国とはすべて似ている、兄弟のように感じると喜んでた。

南部戦跡を見学したときは、さすがに暗い表情をされた。「沖縄の海と空は美しいのに、こんなにきれいな自然の下で戦争があったのですね、考えられません」とおっしゃった。

私は今、中国語を学ぶことを決心した。  
隣人を大切にすることは、まず言葉を覚えること  
だと思ふ。



## 熱き心を感じる

与那城 章

沖縄県

「21世紀のための友情計画」中国経済貿易実務者グループのホストファミリーを、平成2年12月8日(土)から10日(日)までの2泊3日、引き受けることになった。対外経済貿易部人事課労働教育司処長の門紹忠さんと陝西省特産物輸出入会社の李西安さんのふたりである。

言葉はよく分からないが、「你好」から始まり、中国辞典を傍らにノートに漢字を書きながら話をする。子供たちも遠い国から親戚が来たように、ゲームをしたり遊んだり、楽しそうである。門さんも李さんもホームステイは初めてで、どうなるだろうと心配していたようだ。夕食のスキヤキを食べながら安心感と親しみを感じたようで、「とてもこのうれしさを言葉で表現できない」というおふたりの気持ちが私たち夫婦と子供たちにも伝わってきた。

9日は南部観光。玉泉洞で長元さんの家族と偶然出会い、ホームステイの邱偉明さん、王建平さんを紹介してもらい、話も楽しくなる。今夜の夕食会はみんなでやろうと計画。私たちは琉球村の見学と奥武島でグラスボートに乗った。青い海と海底の神秘と珊瑚礁、魚の種類に感動の連続だった。

夕食は南岡原町の居酒屋で長元ファミリーと私たち家族、門さん、李さん、邱さん、王さんの大勢で海産物料理とたくさんのメニューで和気あいあいの夕食会。ノートに漢字を書きながら意思疎通をした。酒が入ると国境はなく、世界は一つである。「互いの子供たちの夢と友情に」「友よ、い

つまでも友情は変わらない。乾杯、乾杯」の夕食会だった。

10日はお別れの日である。私は仕事があり、その日は妻がひとりで那覇の市場を案内する。中国と似ているので大変喜んだようだ。

11日の「交流の夕べ」。自治会館大ホールで歓送会。短い期間のホームステイ中の話をしたり、友人の写真を撮ったりして、沖縄での感動を心にい

っぱい刻みこむ。

言葉がわからなくても、真心で、心で触れ合うことが大切。さわやかな思い出と温かいぬくもりがわが家に残っている。子供たちが大人になったとき、熱い友情の輪が世界の平和につながると思う。門紹忠さん、李西安さん、邱偉明さん、王建平さん、ご家族の健康とますますの活躍を沖縄の地から祈っています。

実績資料

## 1. 現地プログラム実施日程

	午 前	午 後	場 所
第1日目	●開講式	●オリエンテーション ●質疑応答	中日青年友好交流センター
第2日目	●説明会 ●JICA事業についての説明 ●渡航手続き ●日本映画鑑賞	●グループ別説明会 ●グループ別日本語学習	〃
第3日目	●講義「日本概況」	●松下ブラウン管工場見学 ●歓送会	〃

## 2. 中国実務者招へい計画実績

●平成2年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施 県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
地域産業技術 実務者	24	全国農村青少年 教育振興会	岐阜	中部支部	岐阜県指導農業 士連絡協議会	農政部農業技術 課	金田 三郎 藤田 忠雄	山本 知里 張 愛平
産業基盤整備 実務者	25	青少年育成国民 会議	広島	中国支部	青少年育成広島 県民会議	民生部青少年対策 室・青少年婦人課	山崎 武	村田 好子 黄 丹青
経済・貿易 実務者	25	ユースワーカー 能力開発協会	沖縄	沖縄支部	沖縄県国際交流 財団	総務部知事公室 国際交流課	福山 敦夫	邵 春芬 橋本 和子
文化・教育 関係実務者	25	世界青少年交流 協会	徳島	四国支部	徳島県青年海外 派遣の会	企画調整部青少 年婦人室	白非 千里	加藤 洋子 李 珊

### 3. 実施日程

第10陣 中国地域産業技術グループ

月日	曜	プログラム内容	実施場所
11/20	火	米日 生活ガイダンス	東京
21	水	本計画のブリーフィング 閉講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	〃
22	木	講義「日本と中国」 国立歴史民俗博物館	〃
23	金	日本語学習 講義「日本の文化」 大使館表敬訪問	〃
24	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	〃
25	日	<自主研修>	〃
26	月	日産自動車見学 武道鑑賞および交歓会	〃
27	火	講義「農村振興政策」 農林放送事業団（説明・施設見学）	〃
28	水	太田市視察 全国農協中央会（講義・質疑） 講義「村おこしの手法」	〃
29	木	トキワ園芸農業協同組合訪問（説明・施設見学） タカノフーズ(株) 納豆工場見学	茨城
30	金	農林水産技術会議筑波事務所（説明・質疑） 農業生物資源研究所（説明・施設見学）	〃
12/1	土	果樹試験場（説明・施設見学） 宇宙センター展示館見学 地質資料館見学	〃
2	日	静岡へ移動 箱根大涌谷・芦ノ湖見学 合宿セミナー開講式	静岡
3	月	基調講演「日本の農業教育の現状」 グループ討論 スポーツ交流 交流のタペ	〃
4	火	グループ討論 全体発表会	〃
5	水	岐阜へ移動 県庁表敬訪問 日程オリエンテーション 県勢概要説明 農業概要説明	岐阜
6	木	高山へ移動 飛騨農業普及所訪問（施設見学・説明・質疑）	〃
7	金	肉用牛試験場視察 高山市内観光	〃
8	土	講義「地域産業振興政策」 ホームステイ引き渡し	〃
9	日	<ホームステイ>	〃
10	月	ホームステイ ホームステイ交流会 レセプション	〃
11	火	伊奈波農業普及所訪問（施設見学・説明） 農業総合研究センター（施設見学・説明）	〃
12	水	西南濃農業普及所訪問（施設見学・説明） 自主研修	〃
13	木	京都へ移動 嵐山（周元総理記念碑参拝） 金閣寺・西陣織会館見学	京都
14	金	松下技術館見学 大阪城見学	〃
15	土	広島へ移動 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
16	日	宮島・厳島神社見学	〃
17	月	自主研修 東京へ移動	東京
18	火	<帰国準備>	〃
19	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	〃
20	木	帰国	〃

第10陣 中国産業基盤整備グループ

月日	曜	プログラム内容	実施場所
11/20	火	来日 生活ガイダンス	東京
21	水	本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	"
22	木	講義「日本と中国」 国立歴史民俗博物館	"
23	金	日本語学習 講義「日本の文化」 大使館表敬訪問	"
24	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	"
25	日	<自主研修>	"
26	月	日産自動車見学 武道鑑賞および交歓会	"
27	火	講義「青少年事情と国民会議の役割」 講義「土地利用に関する総合基盤整備の現状」	"
28	水	講義「都市と都市開発の概要について」 多摩ニュータウン事業開発事務所訪問	"
29	木	講義「総合交通政策について」 小田急電鉄㈱ (説明・施設見学・質疑)	"
30	金	神奈川へ移動 合宿セミナー日程説明 スポーツ交流 交流の夕べ	神奈川
12/1	土	グループ討論Ⅰ グループ討論Ⅱ スポーツ交流 自由懇談	"
2	日	全体発表会 箱根観光 東京へ移動	東京
3	月	講義「通信網の発達の現状と課題」 日本橋郵便局視察 NTT銀座営業所視察	"
4	火	広島へ移動 オリエンテーション 歓迎レセプション	広島
5	水	講義「県の産業基盤整備状況」 マツダ自動車 (説明・見学・質疑) 平和記念公園見学	"
6	木	地元青年との合宿交流会 (料理交流・茶会・意見交換会)	"
7	金	県知事表敬訪問 地元青年とのスポーツ交流 ホームステイ引き渡し	"
8	土	<ホームステイ>	"
9	日	<ホームステイ>	"
10	月	新広島空港視察 竹原市長表敬 火力発電所視察 東広島市長表敬 佐竹製作所見学	"
11	火	広島市役所訪問 (概要説明) 千代田町長表敬 N.Y.市立大学日本校見学 歓迎会	"
12	水	JR西日本鉄道見学 NTT基町ビル・大州ビル視察 さよならパーティー	"
13	木	大阪へ移動 大阪高速鉄道見学 大阪府営住宅・下水処理場見学 地元青年との交流	大阪
14	金	京都へ移動 嵐山 (周元総理記念碑参拝) 川島織物中央技術センター見学	京都
15	土	興福寺見学 東大寺・大仏殿見学 春日大社見学	"
16	日	二条城見学 金閣寺見学 太秦映画村視察	"
17	月	西陣織会館見学 東京へ移動	東京
18	火	<帰国準備>	"
19	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	"
20	木	帰国	"

第10陣 中国経済貿易グループ

月日	曜	プログラム内容	実施場所
11/20	火	来日 生活ガイダンス	東京
21	水	本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	〃
22	木	講義「日本と中国」 国立歴史民俗博物館	〃
23	金	日本語学習 講義「日本の文化」 大使館表敬訪問	〃
24	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	〃
25	日	<自主研修>	〃
26	月	日産自動車見学 武道鑑賞および交歓会	〃
27	火	経済団体連合会（概要説明・質疑） 東京証券取引所（説明・見学） 東京タワー見学	〃
28	水	浅草寺幼稚園（説明・見学） 経済企画庁（概要説明・質疑）	〃
29	木	山梨へ移動 合宿セミナー開講式 レクリエーション	山梨
30	金	日中両国青年スピーチ グループ討論Ⅰ グループ討論Ⅱ	〃
12/1	土	グループ討論Ⅲ 全体発表会 交流の夕べ	〃
2	日	スポーツ交流 東京へ移動	東京
3	月	日本貿易振興会（概要説明・質疑） ダイエー訪問（説明・施設見学・質疑）	〃
4	火	<自主研修>	〃
5	水	沖縄へ移動 県庁表敬訪問 オリエンテーション	沖縄
6	木	ボリング大会 沖縄電力（説明・施設見学・質疑） 歓迎レセプション	〃
7	金	オリオンビール（説明・施設見学・質疑） 沖縄海洋博覧会記念公園見学	〃
8	土	講義「琉球と中国の交流について」 地元青年との意見交換会 ホームステイ引き渡し	〃
9	日	<ホームステイ>	〃
10	月	ホームステイ 沖縄国際センター訪問（説明・施設見学）	〃
11	火	<自主研修> さよならパーティー	〃
12	水	自主研修 広島へ移動	広島
13	木	平和記念公園・原爆資料館見学 大阪へ移動	大阪
14	金	松下電器技術館見学 ユニチカ宇治工場（説明・施設見学・質疑）	〃
15	土	近畿通商産業局訪問（概要説明・質疑） 京都へ移動	京都
16	日	金閣寺見学 嵐山（周元総理記念碑参拝） 二条城見学 清水寺見学	〃
17	月	古代友禰苑見学 東京へ移動	東京
18	火	<帰国準備>	〃
19	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	〃
20	木	帰国	〃

第10陣 中国文化教育グループ

月日	曜	プログラム内容	実施場所
11/20	火	来日 生活ガイドンス	東京
21	水	本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	〃
22	木	講義「日本と中国」 国立歴史民俗博物館	〃
23	金	日本語学習 講義「日本の文化」 大使館表敬訪問	〃
24	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	〃
25	日	<自主研修>	〃
26	月	日産自動車見学 武道鑑賞および交歓会	〃
27	火	オリエンテーション 講義「日本の文化行政」 日本舞踊鑑賞	〃
28	水	池坊御茶の水学院（生け花実習） 西川流宗家（日本舞踊） 映画鑑賞	〃
29	木	東京タワー見学 東京国立文化財研究所（説明・見学） 東京国立博物館見学	〃
30	金	静岡へ移動 富士山五合目見学 合宿セミナー日程説明・自己紹介・打ち合わせ	静岡
12/1	土	グループ討論Ⅰ グループ討論Ⅱ レクリエーション	〃
2	日	グループ討論Ⅲ グループ討論Ⅳ 交流の夕べ	〃
3	月	グループ討論Ⅴ 東京へ移動	東京
4	火	裏千家今日庵訪問（茶の湯） NHK放送センター見学 歌舞伎鑑賞	〃
5	水	徳島へ移動 県庁表敬訪問 日程オリエンテーション	徳島
6	木	県勢概要説明 講義「文化財の保護について」 人形浄瑠璃鑑賞 交流の夕べ	〃
7	金	徳島県立文化の森・博物館・美術館・文書館見学 ホームステイ引き渡し	〃
8	土	<ホームステイ>	〃
9	日	<ホームステイ>	〃
10	月	藍の館（藍染実習） 大鳴門橋見学 千畳敷見学	〃
11	火	<自主研修>	〃
12	水	大塚製薬徳島工場見学 文化財保護団体との意見交換会 さよならパーティー	〃
13	木	広島へ移動 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
14	金	宮島・厳島神社見学	〃
15	土	京都へ移動 宇治平等院・奈良東大寺見学	京都
16	日	金閣寺・西陣織会館見学 二条城・古代友禅苑・清水寺見学	〃
17	月	自主研修 東京へ移動	東京
18	火	<帰国準備>	〃
19	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	〃
20	木	帰国	〃

### 4. 平成2年度青年招へい事業受け入れ実績一覧

受入時期	国名	分野名	人数	実施協力団体名	実施県
5月15日～6月14日 1陣 129名	マレーシア	学生	19	青少年育成国民会議 国際交流サービス協会 世界青少年交流協会 日本国際生活体験協会 ユースワーカー能力開発協会 勤労厚生協会	沖縄 長野 新潟 山梨 福島 和歌山
	"	教員	20		
	フィリピン	学生	20		
	"	教員	20		
	タイ	学生(芸術関係) 勤労青年	25 25		
5月29日～6月28日 2陣 155名	ASEAN 混成	学生	30	日本ユネスコ協会連盟 日本ユネスコ協会連盟 青年海外協力協会 世界青少年交流協会 中央青少年団体連絡協議会 世界青少年交流協会 国際交流サービス協会	宮城 兵庫 山形 大阪 大鳥 北海道
	ASEAN 混成	教員	30		
	ブルネイ	教員・学生(農業関係等)	20		
	インドネシア	テーマA(学生)	15		
	"	教員	25		
	シンガポール	学生	15		
7月3日～8月2日 3陣 131名	フィリピン	勤労青年I(農業系)	23	青年海外協力協会 青少年育成国民会議 国際交流サービス協会 ユースワーカー能力開発協会 日本友愛青年協会 日本青年団協議会	山形 福岡 秋田 宮崎 新潟 愛媛
	"	テーマA	20		
	シンガポール	公務員I	24		
	"	勤労青年	24		
	タイ	青年指導者 テーマB	25 15		
7月9日～8月8日 4陣 100名	韓国	学生	31	世界青少年交流協会 国際交流サービス協会 勤労厚生協会 中央青少年団体連絡協議会	富山 青森 奈良 北海道
	"	教員	21		
	"	勤労青年	31		
	"	青年指導者	17		
8月21日～9月20日 5陣 165名	ASEAN 混成	公務員I	30	国際交流サービス協会 青年海外協力協会 全国農村青少年教育振興会 日本経済青年協議会 青少年育成国民会議 ユースワーカー能力開発協会 日本国際生活体験協会	栃木 大分 滋賀 茨城 福井 静岡 岡山
	インドネシア	テーマB(公務員)	20		
	"	農村青年	23		
	マレーシア	テーマA(勤労青年)	20		
	"	青年指導者	25		
	シンガポール	公務員II	24		
	"	青年指導者	23		
8月28日～9月27日 6陣 126名	ASEAN 混成	公務員II	30	青少年育成国民会議 日本経済青年協議会 日本ユースホテル協会 青少年海外協力協会 勤労厚生協会 全国農村青少年教育振興会	九州 大阪 京都 高知 愛媛 佐賀
	ブルネイ	テーマA	10		
	フィリピン	勤労青年II(産業界)	25		
	タイ	テーマB	21		
	"	テーマA 農村青年	15 25		
9月11日～10月11日 7陣 78名	P N G	教員	20	国際交流サービス協会 日本経済青年協議会 日本ユネスコ協会連盟 世界青少年交流協会 日本ユースホテル協会	長崎 岐阜 鹿児島 岡山 石川
	"	青年指導者	10		
	フィジー	公務員	12		
	太平洋混成	公務員	24		
	"	教員	12		
10月16日～11月15日 8陣 93名	インドネシア	勤労青年	25	勤労厚生協会 日本国際生活体験協会 世界青少年交流協会 全国農村青少年教育振興会	群馬 広島 香川 熊本
	"	学生	22		
	マレーシア	公務員	26		
	"	テーマB(農村青年)	20		
11月6日～12月6日 9陣 100名	中国	総団(内2名団員兼任)	4	日本青年団協議会 日本経済青年協議会 国際交流サービス協会 青年海外協力協会	三重 兵庫 島根 岡山
	"	青年指導者	25		
	"	経済青年	25		
	"	公務員	24		
	"	教員	24		
11月20日～12月20日 10陣 99名	中国	地域産業技術実務者	24	全国農村青少年教育振興会 青少年育成国民会議 ユースワーカー能力開発協会 世界青少年交流協会	岐阜 広島 沖徳 島
	"	産業基盤整備実務者	25		
	"	経済・貿易実務者	25		
	"	文化・教育関係実務者	25		
合計	ASEAN 6ヶ国(799) 中国(199) 韓国(100)	太平洋諸国(78)		53グループ 1176名	

テーマA:ハイテク・科学技術産業の現状 テーマB:地方の農業・地場産業振興

---

## 5. 青年招へい事業実施協力団体等一覧

---

(株)青少年育成国民会議 (National Assembly for Youth Development-NAYD-)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター

TEL3460-4151 FAX3460-1603

(組)中央青少年団体連絡協議会 (National Council of Youth Organizations in Japan)

〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館5階

TEL3470-2271 FAX3475-2545

(財)世界青少年交流協会 (The World Youth Visit Exchange Association-WYVEA-)

〒102 千代田区平河町2-7-3 吉田ビル2階

TEL3262-6301 FAX3221-5776

(組)日本国際生活体験協会 (Japanese Association of The Experiment in International Living-EIL-)

〒102 千代田区麴町4-5 橘ビル6階

TEL3261-3451 FAX3261-9148

(組)全国農村青少年教育振興会 (The Rural Youth Education Development Association)

〒162 新宿区新小川町4-19 末ビル3階

TEL3235-7461 FAX3235-7462

(組)日本経済青年協議会 (Junior Executive Council of Japan-JEC-)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター

TEL3469-2381 FAX3481-5726

(組)勤労厚生協会 (The Working Youth Welfare Association)

〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター

TEL3469-6421 FAX3469-6422

(財)ユースワーカー能力開発協会 (Development Association for Youth-DAY-)

〒105 港区新橋1-1-1 日比谷ビル6階

TEL3508-2048 FAX3503-2535

(組)国際交流サービス協会 (International Hospitality and Conference Service Association-IHCSA-)

〒100 千代田区霞ヶ関2-2-1 外務省第一別館

TEL3580-1621 FAX3580-1682

(組)青年海外協力協会 (Japan Overseas Cooperative Association-JOCA-)

〒106 港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル7階

TEL3446-3651 FAX3446-3652

日本青年団協議会 (Japan Seinendan Council)

〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館2階

TEL3475-2491 FAX3475-0668

(財)日本ユネスコ協会連盟 (National Federation of UNESCO Associations in Japan)

〒163 新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル38階

TEL3340-3921 FAX3340-3928

(財)日本ユース・ホステル協会 (Japan Youth Hostels, Inc.)

〒162 新宿区市谷砂土原町1-2 保健会館

TEL3269-5831 FAX3235-0629

(財)日本友愛青年協会 (Yuai Youth Association)

〒112 文京区音羽1-7-1

TEL3941-2801,1888 FAX3944-2550

(財)国際協力サービス・センター (International Cooperation Service Center-ICSC-)

本 部

〒162 新宿区市谷本村町42 経済協力センタービル別館

TEL3355-6441 FAX3355-6448

国際交流部

〒160 新宿区片町6-8 ハッシービル3階

TEL3355-6491～2 FAX3355-2929

早稲田大学国際交流センター (Waseda University International Center)

〒169 新宿区西早稲田1-6-1

TEL3203-7747

日本武道館 (Nippon Budokan)

〒102 千代田区北の丸公園2-3

TEL3216-5137



# 中国实业家邀请计划



# 序

以朝向21世纪结成新的友谊与信赖关系为目的，1989年日中首脑会谈时，竹下总理大臣（当时）表明了「中国实业家邀请计划」。今年，迈出了第一步，迎来了地区产业技术、产业基础整备、经济贸易以及文化教育方面的99名有关第一线工作者，共分为4个小组。

一个月的来访期间里，展开了合宿研讨会、民宿活动、以及视察各种设施和企业等丰富多彩的活动。中国青年一定在日本各地留下了美好的印象。日本青年也通过与中国青年交流的机会，得到了超越出语言和生活习惯不同的共鸣。我们听到了许多发自肺腑的欢声，为这项计划的巨大意义感到十分高兴。

本报告书以中国青年代表、参加合宿研讨会的日本青年和提供家庭住宿条件的全国各地许多家庭寄来的感想文为中心，总结了中国青年一个月的来访情况。在本计划实施过程中，包括寄来感想文的各位，得到了多方人士的大力支援和协助。希望本报告书不仅成为参加成员的美好回忆录，而且能够被当做更多人们的宝贵财产。

最后，借本文衷心感谢在本计划实施中给与热情关怀和协助的各位有关人士。同时，为了使「中国实业家邀请计划」今后办得更加有意义，希望继续得到各位的大力协助。

国际协力事业团  
研修事业部  
部长 諏访 龙

1991年3月



# 目 录

## 序

### 一、中国实业家邀请计划

1. 计划概要 .....	51
2. 协助实施团体与实施县 .....	53
二、招聘青年的感想 .....	55
三、参加合宿讨论会的日本青年的反映 .....	62
四、民宿家庭的印象 .....	67
〈实施情况资料〉	
一、在京日程 .....	74
二、中国实业家邀请计划 .....	74
三、具体日程 .....	75
四、1990年度青年招聘一览表 .....	79
五、有关团体地址 .....	80
〈招聘青年名单〉 .....	83



# 一、中国实业家邀请计划

## 1. 计划概要

### 1) 目的

“中国实业家邀请计划”的目的是，通过日本与中国专业工作者的交流，支援中国现代化建设，加强相互理解和信赖，共同创造21世纪中日友好合作关系。

### 2) 实施方法

#### A 招聘人教

1990年同时邀请100名青年

#### B 招聘对象

在以下各领域里从事领导工作的18~35岁的青年

##### (i) 地方产业技术实业家 25名

以从事农业和农村企业技术普及、开发，振兴地区工作的人员为对象。

##### (ii) 产业基础设施建设实业家 25名

以从事产业基础整备、地区振兴工作的人员为对象。

##### (iii) 经济贸易实业家 25名

以从事经营、贸易业务、进行经济改革工作的人员为对象。

##### (iv) 文化、教育实业家 25名

以从事文化保护、振兴方面工作的人员为对象。

#### C 招聘日期

1990年11月20日~12月20日 一个月



(任) 中央青少年团体联络协议会  
 (财) 世界青少年交流协会  
 (社) 日本国际生活体验协会  
 (社) 全国农村青少年教育振兴会  
 (社) 日本经济青年协议会

(财) 青年工作能力开发协会  
 (社) 国际交流服务协会  
 (社) 青年海外协力协会  
 (财) 国际协力服务中心

## 5) 日程分工

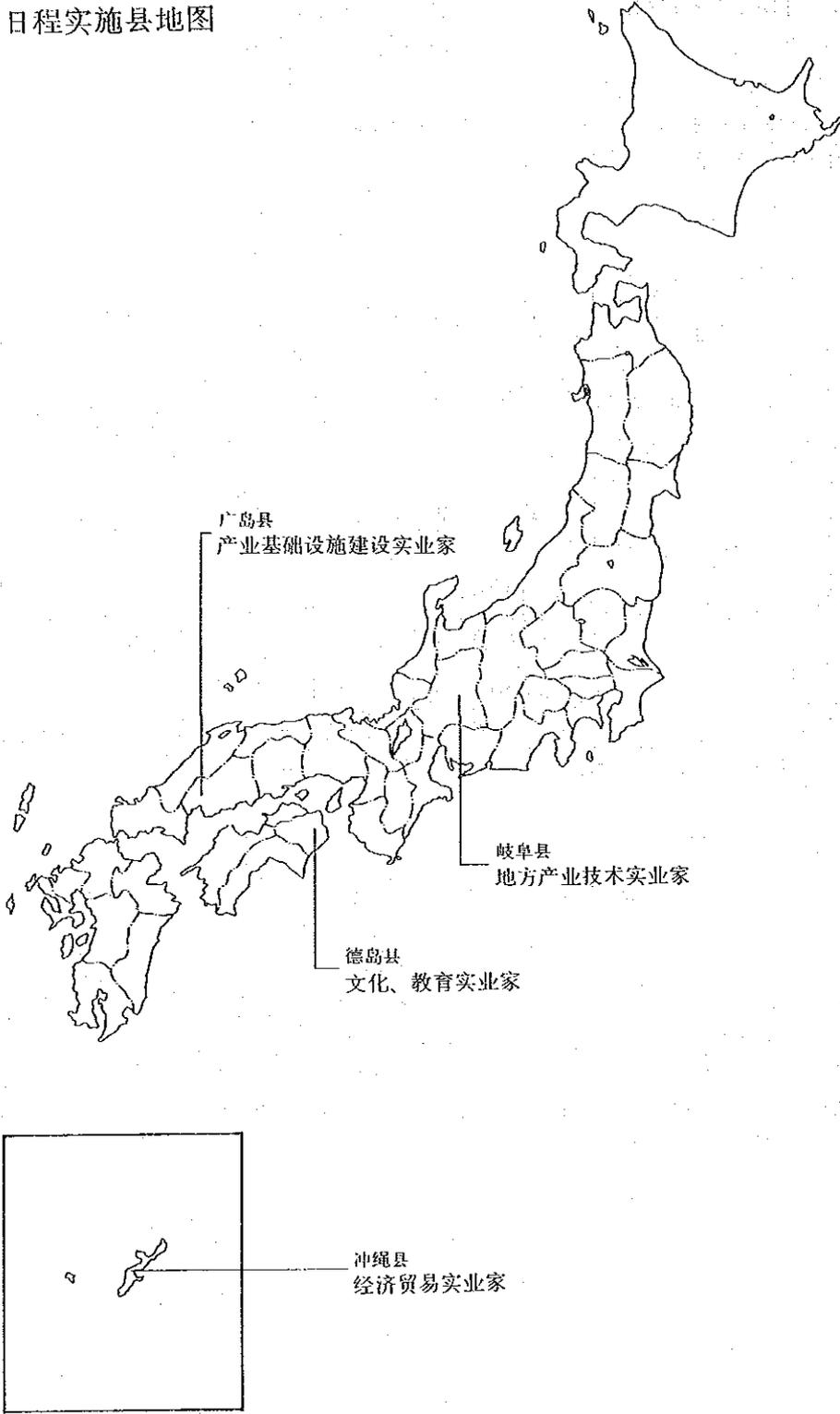
	日 程 监 督	日 程 实 施		食宿安排
		联络协调	实 施	
地 方 日 程	国际协力事业团	国际协力事业团	各实施机关	各实施机关
全 体 日 程 (东京都)			国际协力服务中心	国际协力服务中心
东 京 都 内 分 团 日 程 (东京都)		协助实施团体	协助实施团体	协助实施团体
合 宿 研 讨 会 日 程 (东京近郊)		协助实施团体 地方协助团体 (国际协力事业团 地方支部)	地方协助团体 (国际协力事业团 地方支部)	地方协助团体 (国际协力事业团 地方支部)
地 方 分 团 日 程 (包括民宿)		协助实施团体	协助实施团体	协助实施团体
参 观、访 问 广 岛、京 都 等 评 价、总 结 (东京都)		国际协力事业团	国际协力服务中心	国际协力服务中心

(注) 地方分团活动日程得到了地方公共团体的指导和协助。

## 2. 协助实施团体与实施县

分 团	人 数	协 助 实 施 团 体	实 施 县
地方产业技术实业家	25	全国农村青少年教育振兴会	岐 阜
产业基础设施建设实业家	25	青少年育成国民会议	广 岛
经济贸易实业家	25	青年工作能力开发协会	冲 绳
文化、教育实业家	25	世界青少年交流协会	德 岛

# 日程实施县地图



## 二、招聘青年的感想

### • • • • • 日本的农村地域振兴



熊波

地方产业技术实业家

中日邦交正常化之后,两国在各个方面的交流都得到很大发展。在JIAC的大力协助下,通过这一个月在日本的参观和学习,使我对日本的文化、科技及农村地域振兴等方面得到了初步了解。我体会最深的有以下几个方面:

农村地域振兴:农协组织和政府的农业政策起了重大作用。日本农村收入与城市收入济本平衡,农村中的信息网络比较健全。中央建立了全国农业协同组合中央会,全国各地也都建有农协,把农民吸收到农协。农协在农村的产、供、销及农民的金融保障等方面,为维护农民利益发挥着重大作用。中央农协与地方农协互不限制,有各自的主权。日本政府把农村的振兴作为中心课题,制定了一系列行之有效的农业政策。例如,在日本种大米经济效益低,且大米生产过剩。为了对大米进行合理的种植和管理,政府采取了许多措施,既维护种植大米的利益,又鼓励农民转产,目的在于维护农业的发展。

在岐阜县七天的参观、学习及民宿等,使我留下深刻的印象。岐阜的气温差别大,地势较复杂,当地农业能够利用本地的自然优势,并根据市场要求,对当地的传统产品进行开发,(如明方村的火腿加工、养鸡、种蔬菜、种花卉等)。他们利用灵活的经营方式,用智慧和辛勤的劳动,为农村地域振兴做出贡献。

农村中为农业服务的机构健全,效益明显。日本各地都有农业改良普及所,并有改良普及员,对农民的生产和技术作具体指导,农民生产的产品由农协储存,根据市场情况出售。这样,农民生产的产品有了保障,不愁销路。这种方式值得我们学习。

我国目前也有各种农民研究会,但组织机构不够健全,有待逐步完善。

日本重视科学技术、重视人材、善于开发新技术、新产品。各种产品的更新换代之快,其科研成果的应用和普及之快,给我留下了深刻的印象。

日本十分重视教育事业;农村高中的人学率很高,中小学的教育设施非常好。

一个月的时间,总的来说我感到日本的生活条件非常好。但是所有这些都是劳动的结果。日本人民一丝不苟的工作态度,精益求精的工作精神是值得咱们借鉴的。

### • • • • • 民宿访问所感



李华

地方产业技术实业家

一到东京,就听到到岐阜有民宿访问的安排。作为准备,我拼命地学日语,进步还不小。

所以,在见到我的房东以前,还比较轻松。可是,一见到我的房东熏田正义先生,我把诸如“初次见面,请多关照”等客套话一说完,就再也没词了。原来我所学的那点日语一点儿也不管用。所以在去熏田先生家的路上,我们虽然都想讲话,但都开不了口,只是偶尔相对地笑一笑。我一路都在想,语言不通,这两天怎么过啊?后来,我咬了咬牙,“不是一家人,不进一家门。”既然进了门,就是一家人,豁出去了。这样,心也就慢慢地安下来了。

到了熏田先生家,熏田夫人的一句“你好,欢迎光临”,使我大为高兴和轻松,于是我在门口就迫不及待地用汉语说个不停。可一会儿,我就不得不停下来,因为熏田夫人张大着嘴,吃惊地望着我,不知所云。原来她和我一样,只会汉语的见句客套话,都是临时突击的。于是相对无言,然后哈哈大笑。这一笑,使尴尬的气氛烟消云散。

吃完晚饭，我们就在客厅里热烈地讨论起来了。熏田先生夫妇和他们的一儿一女全都加入了讨论的行列。我们用日语、汉语、汉字、手语、英语、图画等各种能相互交流的语言方式，热烈地、愉快地交流着，充满着家庭式的温暖和睦的气氛。使我不禁想到，我们虽然语言不同，但我们有很多共同之处，我们的心是相通的。

在熏田先生家，我渡过了非常愉快的两天。这两天，通过共同生活、劳动，我更加深入地了解了日本农民的生活、工作、以及住地附近的社社会经济、风土人情等等。使我在民宿访问以前得到的日本人的危机感、竞争意识、超前意识等方面的印象更为强烈。正是因为这样，他们才把自己的国家建设成为如今高度发达的经济强国。同时，我也强烈地感觉到了日本目前面临的问题：能源问题、老龄化问题、国际化问题等等。还有农村人口过疏化现象、以及日本的高耗能农业，几乎全靠政府补贴，农产品市场开放后的国际竞争等，都是非常棘手的问题。

中日两国在文化和传统方面有着千丝万缕的联系，两国的传统交流源远流长。在当前国际环境中，中日两国友好相处，共同发展尤为必要。21世纪是我们青年一代的世纪，所以加强两国青年的相互交流，相互了解，增进友谊就会成为中日两国人民长期友好下去的坚实基础。

在熏田先生家的两天，加深了双方的了解、理解和友谊，收获很大。两天的时间虽短，但却给我留下了深刻的印象。我希望中日两国人民之间这样的交流更多一些、更深一些。我也想借此机会，再次向熏田先生及其全家表示衷心的感谢，并衷心地希望中日两国人民世代友好下去，为世界和平作出贡献。

## 科技振兴日本农业



吴 伟雄

地方产业技术实业家

30天访日结束了，许多方面，我们得益非浅，最深的感受是：科技振兴了农业。

日本农业产值占总产值2.6%，农业人口全国16%，农业税收占全国2%，财政农业支出占全国5%。可以说，日本农业情况并不好；而我们到农村所看到的是农民收入并不低，农民不但生活水平较高，而且能大量花钱扩大再生产，办温室种花、办机械化农业、畜牧业、水产业。我感到，除了政府给予可靠的政策保护、农协指导农民勤奋之外，一个很重要的因素：是依靠科技给农业提供良种，不断更新农业耕作方法，创造工业化条件，保护农牧业免遭病虫害，为农业产品再制、贮存过程中增加价值。总之，科技振兴了即将衰落的农业。

日本科技的主要特点有以下三个方面：

1. 引进、综合：日本科技不仅仅研究，有许多东西都是从国外引进的。农业也不例外，引进通过“加工”“改进”“综合”、产生新的更完善的技术。水稻优良品种、桔子由酸变甜，都说明了专业引进成果。另一种是不同行业引进，把工业、医学等行业技术引到农业上来，如工业建筑在花卉生产应用、食品工业保鲜在蔬菜上采用、说明他山之石，可以攻玉。将这些引进加以改进综合，达到了易、快、少、高（容易搞、速度快、花钱少、效益高）。

2. 推广普及：日本农业科技应用推庄方面积累了许多成功的经验。具体作法是，(1)通过农林水产省提供技术信息（世界上、国内的）和大的计划决策；(2)派出大量学者到西方研修和亚太地区交流；(3)通过农业研究机关试验；(4)通过农协或农业技术推广普及所有计划、有重点实施；(5)国家对一些大项目拿出推广经费50%，40%由农协或银行低息贷款，农民自筹10%，保证技术迅速推广实施，以点带面，先在农业指导士家里推行，以后再发展到其他农民。这一健全的应用体系和方法，使成果得以普及推广。高山飞蝉牛，其培育的全国评比第一的“安福号”采用人工授精配种，使全县肉牛良种率达85%以上；塑料大棚养花技术是全县推广。西南浓普及所把高田等五个花农组织起来，建立a、共同出资、b、专人管理、c、统一销售、d、利润均分的花农协组合。这个先进技术加高投入、实现种花高产量、品质高质量、卖出高价钱、收入高效益。

3. 奖励门利

研究、引进和推广，出了成果，政府有专门奖